



A N N U A L
R E P O R T
2 0 1 5





Change & Create

独創的な未来へ

世界に類をみないほど高額だった日本からの海外旅行。H.I.S.グループの歴史は、この旅行ビジネスの常識への挑戦からスタートしました。一人でも多くの人が世界に飛び出してみ識を高め、世界の人々との交流により相互理解を深めることで、平和で豊かな世界を築くことができる。H.I.S.グループはそう考え、さまざまな既成概念や商習慣を打ち破りながら、新しい旅行の形を創造してきました。

今、世界の旅行需要は急速に拡大し、アジアを中心に、旅行産業の新たな時代が到来しています。その中で私たちは、これまで築いてきた世界の拠点と事業ノウハウを基礎とし、受け継いできた挑戦者のスピリットと発想力を武器に、旅とエンターテインメントの新たな時代を築いていきます。





» CONTENTS

H.I.S.グループの強み	4
H.I.S.会長メッセージ	6
H.I.S.社長メッセージ	8
36期のH.I.S.グループの事業戦略	10

セグメント別事業報告

旅行事業	13
ホテル事業	17
テーマパーク事業	18
運輸事業	20
九州産交グループ	21

財務セクション

CFOメッセージ	22
財務状況と分析	24

財務データ 連結財務諸表

①連結貸借対照表	26
②連結損益計算書及び連結包括利益計算書	28
③連結株主資本等変動計算書	29
④連結キャッシュ・フロー計算書	30

企業概要	32
株式情報	32
コーポレート・ガバナンス	33
企業理念とCSR	33
沿革	34
主要子会社および関連会社	35

≫ H.I.S. グループの強み

総合型旅行会社として旅行事業を深化させ、 さらに成長していくとともに、 新たなことにも果敢に挑んでいく。

H.I.S.グループは、日本を含む世界65か国に517拠点を展開（2016年4月現在）。グローバルな総合型旅行会社として、事業を推進しています。旅行事業においては、日本人の海外旅行・国内旅行、海外からの訪日旅行、さらに海外から第三国への旅行をすべて網羅し、グループ内で旅行全体をカバーする「垂直統合型」サービスを通じて、魅力ある旅行商品を提供しています。さらに、旅行事業の枠にとらわれない、新たな事業にも果敢に挑戦しています。

供給力と価格優位性をもつ仕入れ

世界各国の航空会社や主要ホテルなど各サプライヤーとの直接取引を行うほか、チャーター便の積極的な活用などにより送客数のボリュームを常に確保することを通じて大きな交渉力を保持しています。航空座席、宿泊、バス輸送などについて、さまざまなお客様のニーズに応える安定した供給力と、価格の優位性を実現しています。

多様な販売チャネルと販売網

営業店舗網は国内で301拠点に達し、ハワイ専門店なども展開。企業、イベント、大型団体旅行に対応する法人部門、さらにインターネットサイト（総合サービス型、機能特化型、各種旅行アプリ）も拡充しています。お客様へのサービスとコミュニケーションの拡大を目指し、ソーシャルメディアやスマートフォンの活用も進めています。

旅行事業

日本発海外旅行

日本国内旅行

訪日旅行

海外における旅行事業
(海外拠点受入業務・海外発海外旅行)

サービスと品質へのこだわり

H.I.S.グループは、サービスと品質にこだわりをもって事業を運営しています。特に「いい旅研究室」は、商品の品質向上や、旅行の安全と安心の確保を目的に運用されている部署です。独自の品質管理基準を設け、スタッフが現地に出向き、バス会社の立ち入り調査やホテル、観光地、お土産物店などのチェック、現地ガイドの研修などを行っています。また、お客様からのアンケートを基に安全管理や品質向上を進めています。



お客様から直接ご意見をうかがう座談会

..... 多彩な商品ブランド

海外航空券は、取り扱いエアライン数400社以上の豊富なラインナップ。そしてFIT（海外個人旅行）型パッケージツアーCiao（チャオ）、添乗員同行ツアーimpresso（インプレッソ）、こだわりと上質の旅QUALITA（クオリタ）、海外ウェディングAvanti&Oasis（アバンティ&オアシス）など、さまざまな旅のブランドを展開。お客様のあらゆるニーズに対応しています。特にFIT型パッケージツアーは、アジアを中心に需要が急増。世界で展開を進めています。



..... グループ内でシナジー 垂直統合型サービス

H.I.S.グループは、航空、ホテル、テーマパークなど、旅行全体をカバーする「垂直統合型」サービスを展開しています。グループ内でお客様情報を共有することで、より質の高いサービスを提供することが可能になり、無駄のないスケジュールやリーズナブルな価格、シームレスで連携の取れた対応もお客様のメリットとなっています。

事業開発を担う未来創造室

未来創造室は、
ハウステンボス



で行われている研究開発や実証実験からの事業展開を担っています。手始めとして、2016年4年からの電力の小売自由化にあわせ、電力事業に参入。ほかにも、ハウステンボス内のホテルで商用化を進めているロボット、農業なども事業開発の準備中です。グループのリソースを活かし、新たな挑戦を進めています。

..... H.I.S.グループのグローバルネットワーク

現在、H.I.S.グループの拠点数は、国内301拠点、海外64か国 216拠点まで拡大しました。進出国数は、旅行会社として世界最大です。これらの拠点を足場に、現地における旅行事業を拡大。さらにそれぞれの海外拠点は、旅行事業に従事するだけでなく、グローバルに展開する各企業・団体様のさまざまなニーズに応える現地拠点として発展しています。



≫ H.I.S.会長メッセージ



代表取締役会長

澤田 秀雄

アジアを中心に 大きく変わりつつある世界

今、世界は大きく変わりつつあります。旅行需要は一気に拡大。アジアを中心に、アフリカ、中南米などを舞台にした新たな大航海時代が始まっています。全世界の海外旅行者数は既に11億人を大きく上回り、今後も年間4%から5%の増加が見込まれています。訪日旅行客数も、予想をはるかに超えるスピードで増加し、2016年は2,300万人を超えるとみられています。日本では人口減少やそれに伴う経済の低成長が予測されていますが、世界に目を転じれば、旅行産業は世界で急成長しており、さらに大きく発展していくことでしょう。

情報通信技術（ICT）の進歩も目をみはるものがあります。世界は今、隅々までインターネットによって結ばれ、ICTの急速な進歩により、誰もがその恩恵を受けながら生活を楽しむことができるようになりました。世界はポー

ーレス、グローバルに結ばれ、人々のライフスタイルも急激に変化しています。その中で、世界に200を超える海外拠点を有するH.I.S.グループが果たすべき役割は非常に大きいと考えています。

ハウステンボスを舞台に 壮大なチャレンジを続ける

他方で世界は、地球温暖化などの環境問題、食料・エネルギーの安定確保の問題、先進国における急速な社会の高齢化など、さまざまな問題に直面しています。旅行はそれを通じて相互理解を深め、平和を生み出す産業であると同時に、平和を前提とする産業であり、私たちは平和を脅かすさまざまな問題の解決も担っていきたいと考えています。

私たちは、ハウステンボスを未来都市への壮大な実験場と位置づけ、電力エネルギー、ロボット、環境・省工

世界の平和に貢献する 未来創造企業として挑戦を続ける

ネ技術、食料生産、さらには健康などの研究・開発を進めています。サービスロボットを駆使したスマートホテル「変なホテル」は2015年7月に開業し、第2期棟も2016年3月にオープンしました。この2期棟においては、年間電力需要量の一部を賄い、将来的にはエネルギー自立を実現します。そして、ホテルの運用を通じてさまざまなデータを取得しながら、必要な改良を行い、スマートホテルの国内・世界への実用化を進めています。

既に、電力小売事業は、2016年4月の完全自由化に合わせて参入しています。将来は、再生可能エネルギーを使った発電事業にも取り組む計画です。「世界一生産性の高い農業工場」の実験も着々と進んでいます。

こうしたロボット活用、エネルギー供給、食料生産は、その1つだけでも今世界が直面する課題の解決に向けた大きな力になるものであり、世界平和と社会の持続的な発展に貢献することができます。既に国内のみならず世界から注目を集め、この分野の最先端の知見や技術、そして人が集まっています。特にロボット技術は、ICTの集大成であり、きわめて大きな可能性を秘めており、開発を加速していきたいと考えています。



グローバルな視座と 挑戦者のマインドをもって

大きく変わりつつある世界の中で、H.I.S.グループはさまざまな事業を通じて新たな企業価値を創出しながら成長を続けています。しかし、今後100年、200年と継続して発展していくためには、H.I.S.グループならではの企業文化を育てていく必要があります。

創業以来H.I.S.は、旅行業が担う大きな役割の自覚に立ち、世界で最も大きく、最も信頼できる旅行会社になることを目指して、さまざまな既成概念を打ち破り、誰もが気軽に旅行を楽しむことができる新しい時代を切り開いてきました。H.I.S.グループの新たな発展のためには、その挑戦者としてのスピリットをDNAとして受け継ぎながら、お客様の喜びと満足を最大の価値とし、その実現を日々の働きがいと感じながら業務に当たることができる人材を育てていかなければなりません。そして、そうした精神にあふれたイノベティブな組織をつくり、牽引していける経営層を育成していくことが求められています。そのために、組織体制や人事評価制度の見直し、社内ベンチャー制度の確立、「未来創造室」の設立、さらに「澤田経営道場」の運営などを既に進めています。企業の成長と新たな企業価値の創造は、チャレンジを続け、常に変化していくことを抜きにあり得ません。H.I.S.ポリシーや企業理念、さらにそれを具体化した行動憲章に則りながら、一人ひとりが勇気をもって決断し、実行していくことが重要だと考えています。

平和産業・健康産業に 携わることを誇りとして

旅行事業もテーマパーク事業も、平和産業であり、健康産業であり、そしてコミュニケーション産業です。そのような事業に携わっていることを誇りとしながら、H.I.S.グループは、世界を舞台に、さらに多くの笑顔が生まれることを願って、挑戦を続けていきます。株主・投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様と共に、H.I.S.グループはグローバルな未来創造企業としてさらに成長を続けます。皆様のより一層のご理解と支援を心よりお願い申し上げます。

≫ H.I.S.社長メッセージ



代表取締役社長

平 林 朗

訪日外国人旅行が大幅に拡大

2015年度の旅行市場は、海外旅行においては、円安基調に加え世界情勢不安や感染症などの影響を受けましたが、国内旅行においては、各地の観光振興や新たな世界遺産登録などを背景とした国内志向の高まりにより順調に拡大。特に訪日外国人旅行は、中国や東南アジア諸国の需要が大幅に増加し、訪日外国人数が過去最高を更新し続けるなど好調に推移しました。

その中でH.I.S.グループは、取扱商品の内容充実にも努め、高付加価値商品の販売促進による単価の改善を図りました。また、本格参入を果たし事業拡大中の国内旅行は、沖縄を重点地域として強化。さらに自治体と連携しながら、旅先（着地点）において、独自の風土や文化、歴史、特産品、隠れた名所などを折り込みながら旅行商品を企画する「着地型観光事業」を推進しました。訪日旅行事業については、中国からの受客が大幅に増加したことに加

え、訪日専門チームを編成し個人旅行の取り組みを強化したことが奏功し、東南アジアからの受客も増加しました。スタディツアーでは専門性の高い商品の展開に注力。「カンボジアの孤児院でボランティア＆アンコールワット6日間」は「ツアーグランプリ2015」において海外旅行部門観光庁長官賞を受賞しました。

海外64カ国134都市に 合計216拠点を展開

そのほか、航空券アプリや旅行中の支援アプリ、訪日アプリの開発などのスマートフォンを利用したサービスの提供、東京・表参道での新しいコンセプト店のオープン、訪日旅行者をサポートする「ツーリストインフォメーションセンター」の全国各地での新設などを通して、観光案内やオプションツアーの販売を強化してきました。

さらに、海外事業については、各地で開催されたトラ

創立40周年を迎える2020年に向け 「Change & Create」を貫きます。

ベルフェアへ積極的に出展して知名度の向上を図ったほか、各拠点において、今後の拡大が見込める中国からの旅行者など、日本人以外の受客を強化し大きな成長を実現しました。海外事業を支える拠点として、東南アジアにおいては、ローカル向け拠点をタイ29拠点、インドネシア17拠点へと拡大、マダガスカルにツアーデスクを開設するなどグローバルに拡充し、H.I.S.グループの営業拠点は、国内301拠点、海外64カ国134都市216拠点となり、前期末と比較し30拠点増加しています。

グループの連結業績で 過去最高の売上と営業利益を達成

こうした旅行事業と並んで、H.I.S.グループではテーマパーク事業も強力に推進し、ハウステンボスでは、「光の王国」や「花の王国」などに続いて、2015年5月に「健康と美の王国」をスタートさせました。さらに、同年7月には、世界最高水準の生産性を目指し変わり続けることを約束するホテル「変なホテル」をオープンするなど、新たなチャレンジも行ってきました。また、2014年8月の事業承継後、年間を通じ初めての運営となった新生ラグーナテンボスでは、幅広いお客様にご満足いただけるようさまざまな施策を繰り広げ、黒字化を達成しました。

ホテル事業においても、ウォーターマークホテルグループとグアムリーフ&オリーブスパリゾート各ホテルに続く新たなホテルとして、2015年8月にインドネシアのバリ島で「ウォーターマーク ホテル & スパバリジン balan」をグランドオープンしました。さらに国際チャーター便専門会社のアジア アトランティック エアラインズは、成田発着便に加え、新たに東南アジアと日本各地との相互チャーター便を実施。チャーター便の特性を最大限に活かす事業展開を進めています。九州産交グループでは、バス事業において、通勤通学の利便性向上を図るなど引き続きお客様本位のサービスの提供に努めてきました。

こうした営業努力の結果、2015年度のH.I.S.グループの連結業績は、売上高5,374億56百万円（前期比102.7%）、営業利益199億70百万円（同125.6%）、経常利益226億85百万円（同119.3%）となり、いずれも5

期連続して過去最高となりました。また、当期純利益も、108億90百万円（同120.3%）と過去最高となりました。

ONE GLOBAL H.I.S.として さらにチャレンジを続ける

アジア域内を中心に世界における旅行需要が急増する中、新たな価値創造や人々の交流による相互理解をもたらす旅行業の役割はさらに大きくなっています。H.I.S.グループは世界60カ国を超える海外拠点をベースにした旅のサポートをはじめ、国際チャーター便専門航空会社 アジア アトランティック エアラインズの運航や、着地型観光事業をさらに推進していきます。

また新たなビジネスモデルとして、旅行に出発したお客様の、いわゆる“旅ナカ”の動きをリアルタイムで追いながら、まるでお客様に同伴するように、状況に応じたタイムリーな情報提供をするシステム開発をさらに加速し、その分野でノウハウをもつ優良企業のM&Aなども積極的に進めながら、今後も、世界中で「ワクワクと感動」のある旅を提供していきます。

H.I.S.グループは、2016年度を起点とし、創立40周年を迎える2020年までの5年間を貫くスローガンを「Change & Create 挑戦者であれ」と決めました。「世界平和・相互理解の促進に貢献する」という企業理念のもと、私たちはすべてのステークホルダーの皆様と共に発展を続ける企業として、さらに挑戦を続けてまいります。



36期のH.I.S.グループの事業戦略 (2016年10月期)

H.I.S.グループは、「ツーリズムを通じて、世界の人々の見識を高め、国籍、人種、文化、宗教などを越え、世界平和・相互理解の促進に貢献する」という企業理念のもと、旅行サービスを通じて、お客様にワクワク感や感動の提供、相互交流の活性化を図り、人類の発展や世界の平和に貢献する未来創造企業グループを目指します。

目標とする経営指標

H.I.S.グループは、主な経営指標として、全社および各事業の売上高、営業利益および経常利益、並びにその成長率に加え、お客様からのご支持の指標である取扱人数並びに取扱額シェアを重視し、日本およびアジア、さらには世界の旅行業界において確固たる地位を築くため、継続的な成長および収益性の向上を目指しています。特に旅行関連事業へ経営資源を集中し、グローバル市場における優位性確立を目指し、邁進していきます。

グループシナジーの最大化

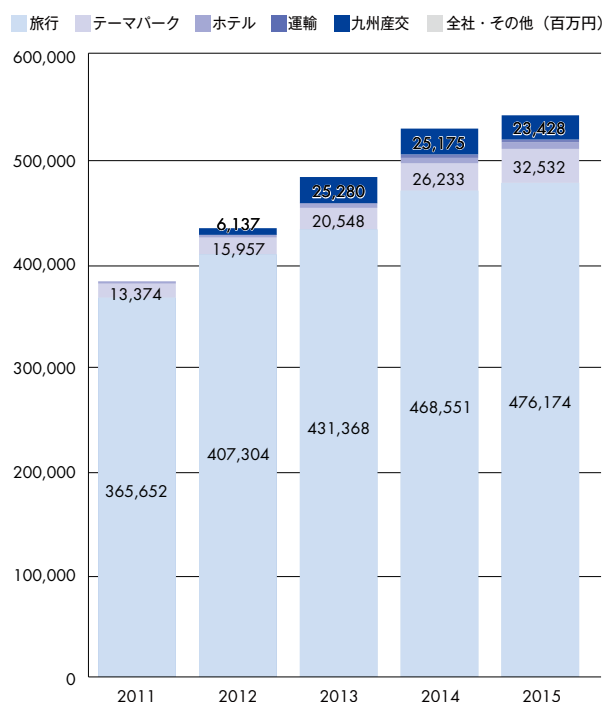
国内外においてこれまで培ってきたグローバルなネットワークの連携強化を図り、仕入力、企画力、手配力を駆使し、これまで以上にお客様にワクワクしていただける商品造成を行っていきます。また、国内外に保有する素材やサービスを、さまざまなチャネルを通じて世界中のお客様へ提供していきます。

今後の成長機会が大きい東南アジア地域、特にタイ、インドネシア、ベトナムにおいては、各国のお客様を対象と

したビジネス展開も加速させ、海外拠点間の送受客ビジネスにも注力します。また、市場拡大が見込まれる訪日旅行事業におけるグループ内の連携やテーマパークへのグループ内送客など、グループシナジーを高め、世界中で信頼され、支持されるグローバルな旅行会社を目指します。そして、アジアを中心として加速する旅行需要拡大に備え、航空座席やホテル客室の供給が不足することがないようH.I.S.グループ内で安定的な供給源を保有し、独自の旅行商品の提供ができる体制を整え事業拡大を目指します。

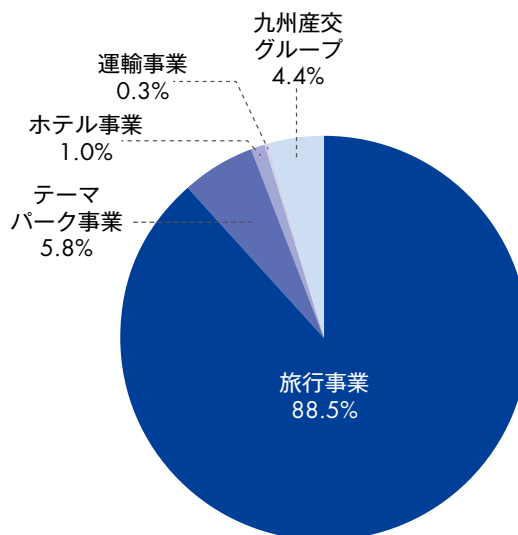
旅行の予約から目的地への移動、現地ガイド、宿泊先、渡航先、そして保有するテーマパークにおいて、「オンリーワン・ナンバーワン」にこだわったH.I.S.グループの一貫した高品質なサービスの提供を実施していきます。また、ハウステンボスでは「観光ビジネス都市」の実現に向け、世界最高水準の生産性を目指し変わり続けることを約束するホテル「変なホテル」の進化や太陽光等のエネルギー事業、サービスロボットの開発等、テーマパーク事業以外の分野における新たなチャレンジも引き続き実行していきます。

■セグメント別売上高の推移



■35期の売上高構成比

(セグメント間取引は相殺消去しています)



▶▶ 旅行事業



株式会社 欧州エクスプレス

東瀛假期
JAPAN HOLIDAY

株式会社 ツアー・ウェーブ



- 日本人の国内旅行、海外旅行
- 海外からの訪日旅行
- 海外から第三国への旅行

シナジー効果

▶▶ 九州産交グループ

▶▶ ホテル事業



▶▶ 運輸事業



自由な航空路線の設定が可能な
国際チャーター便専門航空会社

▶▶ テーマパーク事業



HTBエナジー株式会社

対処すべき課題

これからの旅行業界は、既存の大手旅行会社に加え、インターネットを中心としたオンライントラベルエージェントの台頭や航空会社の直販化、さらには旅行関連の新サービスを提供する企業が続々と登場し、競争はより激しくなるものと思われます。そのような中、H.I.S.グループが対処すべき主な課題は以下のとおりです。

● 安全と安心の提供、サービスと品質の向上

お客様からの支持を得るためには、安心して快適に旅を楽しんでいただくことが最も大切です。これからも、より一層の安全と安心、サービスと品質の向上に努めていきます。その一環として、海外拠点との連携をより強化し、現地ホテル・観光地の安全調査などを積極的に行います。そしてお客様のご意見や現地ガイドの声を、仕入れや商品企画にスピーディに反映させるなど、これからも安全・安心、高品質な商品や情報の提供に努めていきます。また、国内外においてサービスレベルの向上を図ることで、出発前から旅行中、そして旅行後に至るまで、お客様に喜ばれ、支持されるような施策を進めていきます。

● お客様満足度の追求

グローバルネットワークやグループシナジーを最大限に発揮させた手配力や情報発信力を強化し、利便性の追求と競争力のある価格、独自性の強い商品を実現していきます。そして、これまで以上にお客様満足度の向上を目指し、ご出発前には旅へのワクワク感を増幅させ、旅先では期待以上の感動体験を得ていただけるような商品開発に努めます。また、H.I.S.の保有するインフラを最大限に活用し、充実したサービスの提供を図り、新たな価値を創造していきます。

● グローバル人材の輩出

世界の旅行市場は、既存の大手旅行会社だけでなく、グローバルに展開し急速な進化を遂げているオンライントラベルエージェントをはじめ、新たに旅行関連事業サービスを提供する異業種からの参入が顕著になっています。H.I.S.グループとしては、中長期にわたり事業拡大と持続的な成長を遂げるためには、未来価値を見据えた新事業領域へのチャレンジやITプラットフォームの開発などをグローバルに展開していくことが必要不可欠であると認識しており、これらを推進力とスピードをもって実行できる人材の採用、育成を図っていきます。

人事戦略

●制度、組織の再構築

お客様にワクワクと感動を提供するスタッフが評価される評価基準を構築。また、スキル・顧客志向行動のレベルに応じ、オペレーターからコンサルタントへとステップアップする資格制度を整備します。さらに、お客様満足度を数値化し、店舗やスタッフのサービスレベルが見える化、評価の重要指標として設定・運用します。また、原因、結果・目的、手段を可視化し、特定の人財が持つ「暗黙知」を形式知化し共有していきます。

H.I.S.グループ内の、世代や入社時期による価値観の違いを意識したマネジメントを進め、より強固な組織にしています。

●澤田経営道場

澤田経営道場は「志高く、夢大きく、判断力と人間力を養い、経営者としての実務的な知識と見識を習得し、H.I.S.グループのみならず、世界で活躍できる人財を育て上げる」ことを目的に創設されました。これからの世界競争の時代に向け、人財の育成がますます必要になってくる中、1人でも多くの「プロの経営者」を育て、世界で戦える人財を輩出することを目指しています。



道場訓と道場生

「いい職場推進室」

「いい職場推進室」は、H.I.S.全スタッフの満足度向上を実現するための組織として設置されています。社長をはじめ、役員と社員が直接意見交換する「スタッフミーティング」や、50項目以上の質問を設けた社員意識調査を定期的に実施し、その結果に基づいてさまざまな施策を展開しています。

CS・ES戦略

お客様にご支持をいただくため、お客様満足度を数値化し、評価の重要指標として設定・運用していきます。お客様の満足や感謝に触れた時、社員は誇りとやりがいを感じます。それが社員を奮起させ、さらなるお客様支持と繁栄、社員の誇りとやりがいにつながります。この循環を目指し、CSとESが一体となって、お客様目線で物事を考え、追求し、「お客様満足を生み出す力」の徹底支援を強化していきます。そして、ワクワク・感動・誇り・やりがいをグローバルな規模で磨いていきます。

IT戦略

グローバルな視座をもつことは、IT部門に最も要求されています。世界で働くH.I.S.グループ社員と密にコミュニケーションを取り、世界のマーケットを理解し、今後は、海外に情報システム部門の拠点を開設していきます。そこではできる限りローカルスタッフと活動を共にし、失敗を恐れず、さまざまなアイデアを、先端テクノロジーを活用して素早く形にし、学び、そして改善していく—このサイクルをいかに最短かつ低コストで回せるかが、これからのIT部門に求められるパフォーマンスです。そうした方向性を確実に遂行し、そして、スタッフが創造的な活動を実施できる環境整備をしていきます。



Surprise



hisgo Japan



イントラネットでスタッフミーティングの成果を報告

セグメント別事業報告

旅行事業



表参道にオープンした「H.I.S. 旅と本と珈琲とOmotesando」



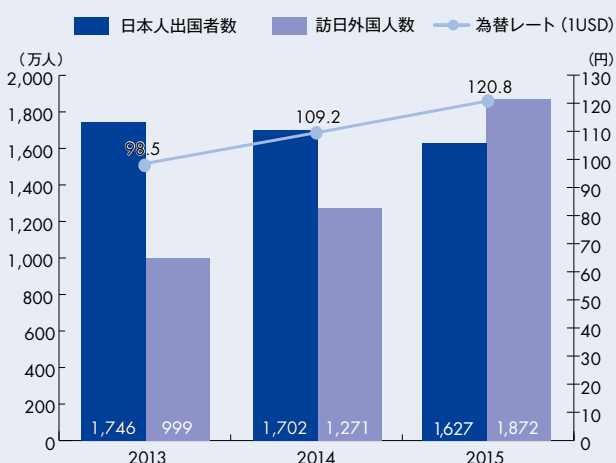
大阪ツーリストインフォメーションセンター

H.I.S.グループはグローバルネットワークを活かし、リアルタイムの情報発信や旅行プランのご提案、旅行先でのトラブルのサポートやインフォメーションのご提供など、旅マエ・旅ナカを通じて世界中のお客様に、旅におけるワクワクと感動を提供しています。

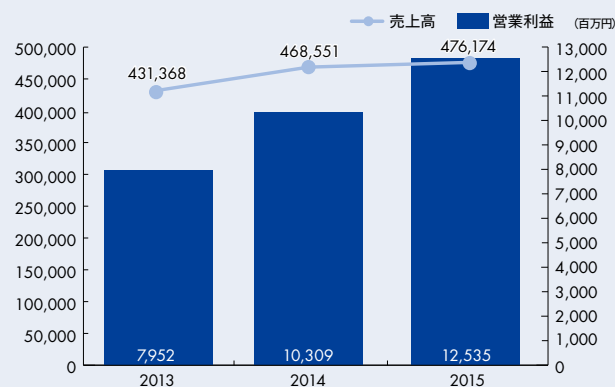
2015年の旅行市場は、海外旅行においては、情勢不安や感染症などの影響を受けましたが、国内旅行は、新たな世界遺産登録などを背景とした国内志向の高まりが継続し、順調に推移しました。そして、訪日外国人旅行は、アジアを中心に需要が拡大し、訪日外国人数が日本人出国者数を大きく上回り過去最高を記録するなど好調に推移しました。

日本人出国者・訪日外国人数推移

期間：11月～10月 出典：日本政府観光局（JNTO）



売上高・営業利益の推移



その中において、H.I.S.グループの2015年10月期における旅行事業は、高付加価値商品、販売チャネル、独自の企画商品の拡充、さらに需要が拡大している訪日旅行や国内旅行の強化に努めました。また、海外事業においては、グローバル拠点の拡充、東南アジアにおける多店舗展開、さらに訪日旅行の販売強化などの各種施策を進めました。その結果、旅行事業は、売上高4,761億74百万円（前期比101.6%）、営業利益125億35百万円（同121.6%）となり、過去最高となりました。東京オリンピック開催年でもあり、H.I.S.グループ節目の40期を迎える2020年に向け、2016年10月期はさまざまな施策を推進してまいります。

【日本発海外旅行事業】

オンラインをはじめとした店舗以外のチャンネルが伸張する中で、今、店舗に求められているのは、「買う場」を超えた価値を提供することです。H.I.S.グループの店舗は、旅ならではのワクワクする体験価値を提供し「買う場」を超えることを目指します。既に、東京・表参道に旅と本と珈琲をコンセプトとしたコンセプトショップをオープンするなど、「旅行手配」にとどまらない新たなスタイルの店舗を各地に展開しています。



航空券・ホテル検索アプリ

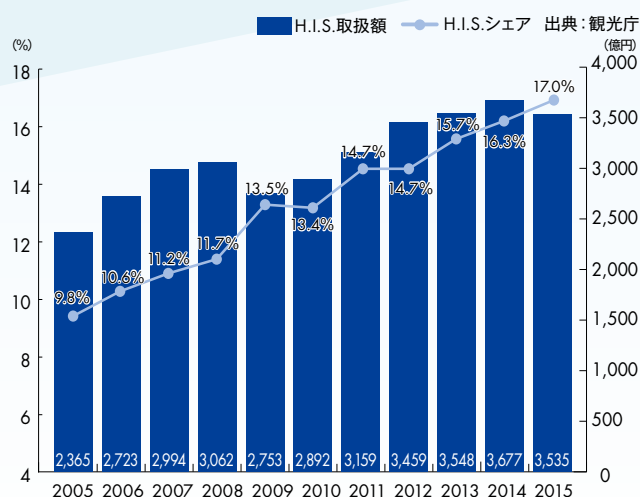


キューバツアーデスク

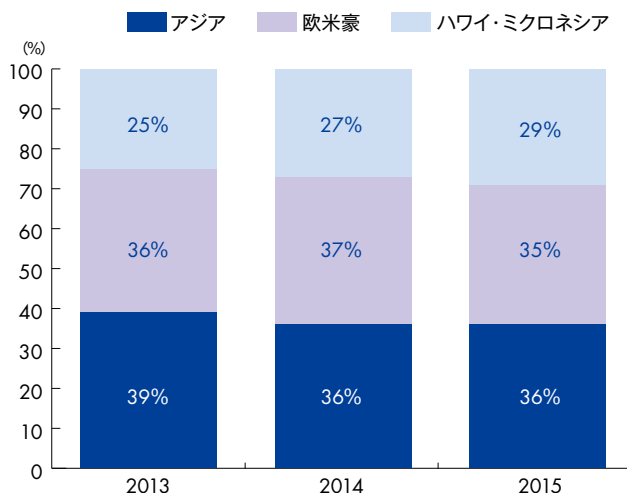
また、方面別、旅行形態別の専門店強化も行い、専門分野に特化したスタッフによるコンサルティング重視の接客スタイルにシフト。専門カテゴリーを広げ、旅行経験豊富なお客様にも対応できる体制を作り、WEBだけのサービスとの差別化を図りながらWEBとリアルのオムニチャネル化も進めていきます。新デスティネーションの開拓としては、経済成長の著しいエチオピアや、アメリカとの国交回復で注目されているキューバ、さらにコスタリカへも進出し、新興国での事業を強化します。また、SNSを活用し、旅マエ・旅ナカ・旅アトまでお客様とつながるサービスの提供に挑戦します。全世界の航空券販売では、運賃・空席状況に関しても一元管理ができるようにし、ホテル販売に関しても海外支店間のグローバルレベルでのクロス取引を加速させ、戦略的M&Aも視野に入れながら、グローバル展開をスピードアップさせます。

また、シニア層マーケットにおけるシェア拡大を引き続き目指し、ターゲット層にふさわしい商品開発と、新たな販売チャネルおよび広告媒体の開発を進めます。B to B市場においても、営業活動を一層強化しシェア拡大を図っていきます。

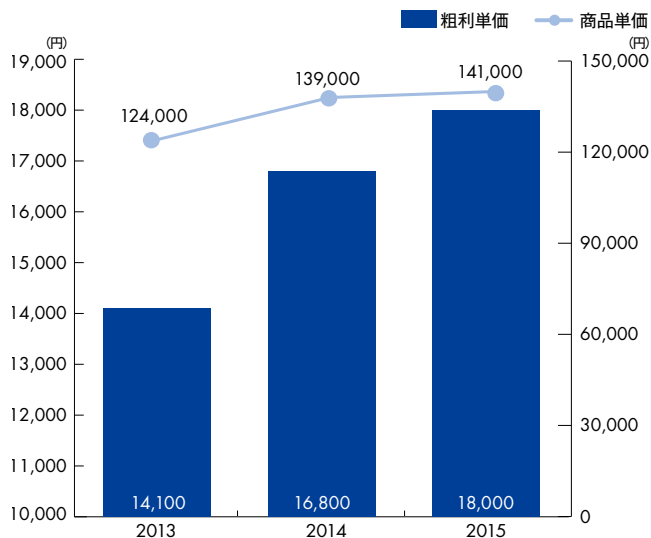
■ 主要旅行事業者内での海外旅行取扱額シェア推移



■ 方面別売上高構成比の推移



■ 商品・粗利の単価推移



【日本国内旅行事業】

旅ナカの体験を強化し、お客様がワクワクするようなコンテンツを組み込んだ商品展開をしていきます。

旅行先としては沖縄を強化エリアとし、さまざまな展開に挑戦します。また、旅クーポンを強化。インターネットとモバイル端末を駆使した、旅の情報を提供するサービスで世の中をさらに便利にしていきます。そして、自治体との連携を深化させ、着地型観光ビジネスも推進していきます。

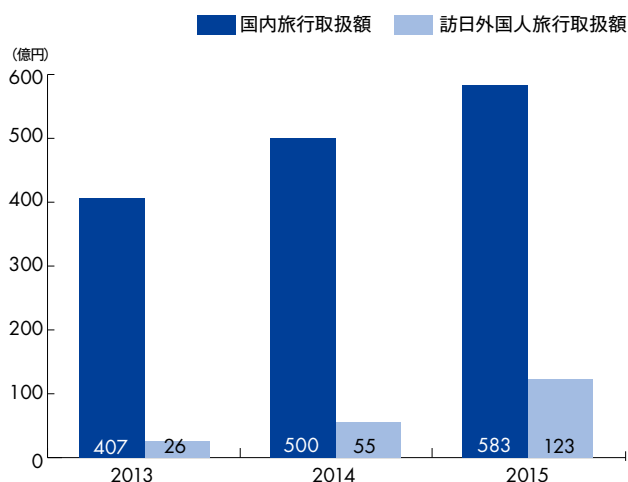


H.I.S.クーポン



沖縄、古宇利島のビーチ

■ 日本における旅行事業の推移



【訪日旅行事業】

需要が急増している訪日旅行については、中国からの受客が大幅に増加。訪日専門チームを編成し、増加している個人旅行への対応も強化するなど、事業拡大に向けた施策を進めました。結果、東南アジアからの受客にも奏功し、取扱額が前期比224%になるなど成果がでています。訪日旅行者をサポートする「ツーリストインフォメーションセンター (TIC)」を心斎橋 (大阪) や原宿 (東京) に新設し、観光案内やオプションツアーの販売等を強化。市場の大きい中国・韓国の手企業との合併会社を設立し、個人旅行化を見すえた展開も図っていきます。



原宿ツーリストインフォメーションセンター

「買う場」を超えた価値の提供



取締役 関東販売事業部長
山野 淳

旅行事業では、シニア層マーケットに対するサービスの提供を強化しており、その成果が上がっています。今後も、シニア層のお客様に対し、さまざまなチャネルを通じた情報発信を強化し、このマーケットでの事業の拡大を目指していきます。

インターネットを利用した旅の情報収集や手続きが増える中、国内の店舗では、インターネットでは入手できない専門性の高い情報の発信基地としての機能を

強化しています。店舗とカフェを一体化し、旅行商品を購入する機能だけの店舗から、コーヒーを味わいながら、旅に触れることができる新しい形の店舗をオープンしたり、旅行先のお土産・物産が購入できるスペースを設けたりしています。今後も、デスティネーションとなる地域や国の魅力を発信するとともに、来店が楽しくなるような場所として、店舗を企画・運営していきます。

また、大手コンビニエンスストアと提携し、旅行商品の販路拡大を追求した新しい試みもはじめています。旅行をもっと身近に、手軽なものにできるよう、今後もさまざまな挑戦を続けていきます。

【海外における旅行事業】

▶インバウンド（海外拠点受入業務）

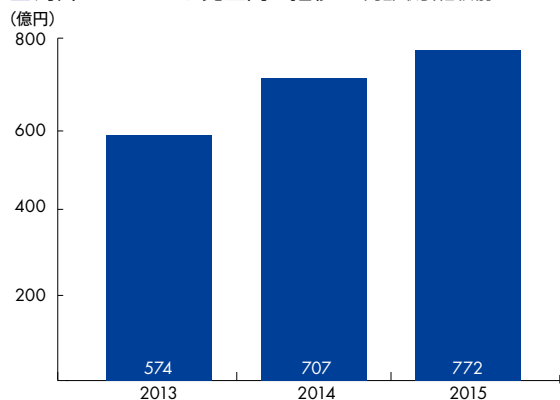
インバウンド全体の方針としては、H.I.S.グループの大きなアドバンテージである海外64か国216拠点をフルに活かし、日本人以外の旅行者へサービスを提供することでシェア拡大を目指します。



タイのトラベルワンダーランド シーロム

「旅ナカでのワクワクと感動」を提供する新たな価値創造を、グローバルな視座で展開します。その柱として、最重要デスティネーションであるハワイを選定。アジアからの送客でNo.1を実現し、世界のマーケットでH.I.S.ハワイの存在感を高めていきます。そのため、トリリーバスをはじめレストラン、エンターテインメント、ホテルなど、オリジナルの着地型インフラ創造のために大胆なチャレンジ・投資をしていきます。さらに、世界遺産などの観光資源の豊富な中近東・アフリカも、アジアからのアクセスが良いといった好条件に恵まれているため、強化していきます。

■ 海外インバウンド売上高の推移 ※内部取引相殺前



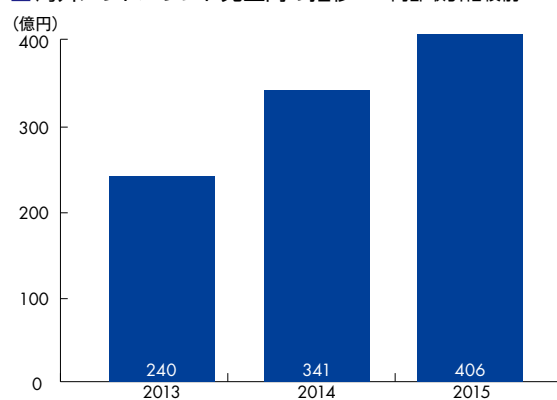
▶アウトバウンド（海外発海外旅行）

アウトバウンド全体の方針としては、各国のローカルマーケットにおいて、総合旅行会社No.1を目指します。既にタイやインドネシアで推し進めている多店舗展開を加速させ、認知度を向上させるとともに、WEBによる販売も含めて需要を見極めながら、拡大する旅行市場のシェア獲得を狙います。そのほか、ホテル販売サイトを横展開することで、各国の国内旅行の取り込みを強化します。また、インドネシア・タイ・ベトナム・中国を中心に地元大企業へのアプローチを行い、BTM (Business Travel Management) の分野への進出を目指し、日本の営業ノウハウを投下していきます。

訪日旅行販売は、H.I.S.グループの独自商材である「HAnavi」を武器に、全日空の路線網を活かした地方都市観光の掘り起こしを含め、強化を図ります。

さらに、新規ビジネスとして、世界共通のサービスプラットフォームの構築を進め、そこにH.I.S.グループのリソースを投入。全世界で活用できる新たなサービスを展開します。以上のような海外事業を遂行するため、海外スタッフの増強を図り、2020年までに現在の3,500人規模から8,000人規模へと拡大します。

■ 海外アウトバウンド売上高の推移 ※内部取引相殺前



海外拠点を有効に活用



執行役員 海外営業本部長
波多野 英夫

世界64か国に216拠点を展開するH.I.S.グループの海外拠点網を今後も強化し、さらに拠点数の拡大を進めます。これまで、海外拠点の役割の多くが、日本人観光客の受け入れを主な業務としていたが、今後は現地のお客様に

対する旅行サービスの提供を強化し、世界で活躍するH.I.S.グループとしてさらに事業を拡大していきます。そのため、海外拠点で働くスタッフを2020年までに倍増

し、また、現地採用を増やして、現地ならではのきめ細かな情報やサービスの提供に努めます。

さらに、海外旅行者数の多い中国・韓国における旅行需要に応えるため、現地旅行会社との協業を進めます。協業により、旅行者に対し、世界各地の当グループ拠点ならではのきめ細かなサービスの提供が可能となり、より魅力ある旅の提案につながります。また、旅行手配だけでなく、旅行中のお客様に対するさまざまな旅ナカサービスの提供も大きなテーマです。特に世界的に旅行のFIT（個人自由旅行）化が進む中、H.I.S.グループが培ってきたFIT旅行のノウハウを世界で展開し、新たな旅行需要の拡大に役立てていきたいと思っています。

▶ ホテル事業



ウォーターマークホテル&スパバリ ジンバラン

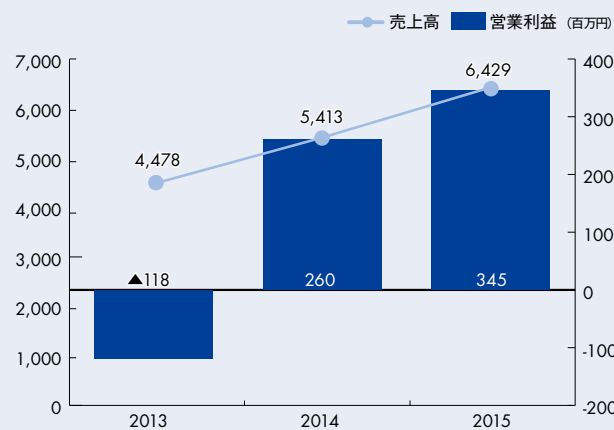


グアムリーフ&オリーブスパリゾート



H.I.S.グループでは、旅行サービスをより充実させるため、ホテル事業も積極的に展開しています。35期のホテル事業は、ウォーターマークホテルグループ（ゴールドコースト、ブリスベン、札幌、長崎）、グアムリーフ&オリーブスパリゾート（グアム）各ホテルにおいて、お客様満足や収益性向上に努めた結果、売上高64億29百万円（前期比118.8%）、営業利益3億45百万円（同132.7%）と堅調に推移しました。また、新たにインドネシアのバリ島で「ウォーターマークホテル&スパバリ ジンバラン」が営業を開始し、2015年8月にグランドオープンしました。

■売上高・営業利益の推移



36期の事業戦略

2020年までに、全世界の旅行者数は2億5,000万人増加の13億8,000万人へ拡大が予測されており、旅行市場は今後ますます拡大すると見込まれています。36期は、ホテル事業が今後の新たな収益の柱となるよう、組織作

り、人員の異動や採用、支配人の養成などを実施していきます。そして、事業戦略として、中期経営計画の策定、営業拠点の設立、進出国計画の立案、ブランディングやポジショニングの明確化などを推し進めていきます。

H.I.S.グループ ホテル一覧

ホテル名	所在地	開業	客室数
ウォーターマークホテルゴールドコースト	オーストラリア	1996年	388室
ウォーターマークホテルブリスベン	オーストラリア	2005年	95室
ウォーターマークホテル札幌	日本	2008年	153室
ウォーターマークホテル長崎	日本	2011年	228室
グアムリーフ&オリーブスパリゾート	グアム	1974年 (2013年リニューアル)	420室
ウォーターマークホテル&スパバリ ジンバラン	インドネシア	2015年	143室

※ハウステンボスオリジナルホテル、ザ・スリーホテルズ「ホテルヨーロッパ」「ホテルアムステルダム」「フォレストヴィラ」、変わり続けることを約束するホテル「変なホテル」はテーマパーク事業に含まれています

▶ テーマパーク事業



ハウステンボスの「光の王国」



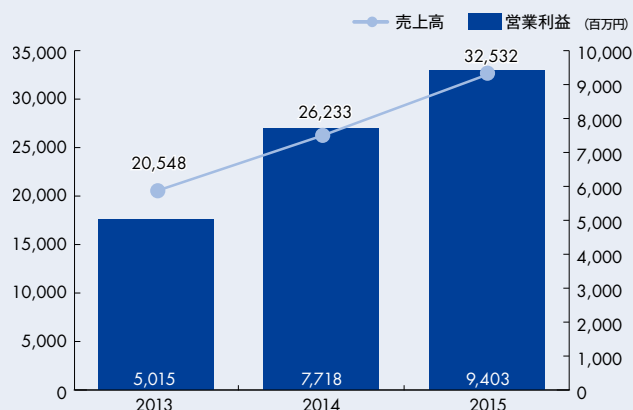
ラグーナテンボスの全景

H.I.Sグループでは、垂直統合型ビジネスの1つとして、ハウステンボス（長崎県佐世保市）、ラグーナテンボス（愛知県蒲郡市）という2つのテーマパークを運営しています。特にハウステンボスは、観光ビジネス都市の育成を目指し、さまざまなチャレンジを続けています。

35期のテーマパーク事業においては、まずハウステンボスで「光の王国」「花の王国」において人気イベントを進化させて開催。また、新しい滞在スタイルの創出として「より健やかに美しく」をテーマとした「健康と美の王国」を新たに誕生させました。さらに、今までにない新規格で世界最高水準の生産性を目指し、変わり続けることを約束するホテル「変なホテル」をオープンするなど、新たなチャレンジも行ってきました。こうした営業努力の結果、入場者が15年ぶりに300万人を超え、事業は引き続き好調に推移しました。

また、新生ラグーナテンボスでは、日本初となる3Dマッピング&イルミネーションイベントを導入したほか、日本最大のエア遊具を集めたビーチパークを新設するなど集客力強化に努めました。さらに、地元産素材を中心

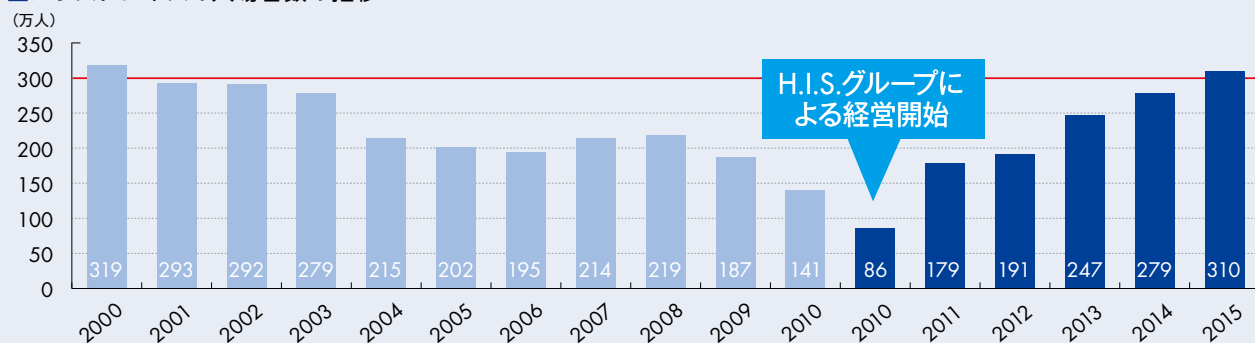
■ 売上高・営業利益の推移



とした「スイーツカフェ」や「ステーキハウス」をオープンし、幅広いお客様にご満足いただけるよう、さまざまな施策を繰り広げ、黒字化を達成しました。

以上の結果、テーマパーク事業の売上高は325億32百万円（前期比124.0%）、営業利益94億3百万円（同121.8%）となり、好調に推移しました。

■ ハウステンボスの入場者数の推移



※2010年は決算日変更による半年間の変則決算

ハウステンボス



36期は既存の「花の王国」「光の王国」「音楽とショーの王国」「ゲームの王国」「健康と美の王国」がさらなるバージョンアップを図ることに加え、第6の王国「ロボットの王国」が登場。ゴールデンウィークにプレオープン、7月にグランドオープンを迎え新たな展開が始まります。また「世界花火師競技会」「九州一花火大会」といった大型花火イベントや初の音楽フェスの開催など多彩なイベントも用意。3世代でお楽しみいただけるテーマパークとして一層の進化を遂げてまいります。そして世界が注目する世界最高水準の生産性を目指す「変なホテル」も3月に第2期棟が完成し、第1期棟とあわせて全144室でグランドオープンを迎えました。ハウステンボスは今期も創造的なチャ



四季折々の花々が咲き乱れるハウステンボスの「花の王国」



「音楽・ショーの王国」ではハウステンボス歌劇団のレビューを堪能

ラグーナテンボス



「新生ラグーナテンボス」として本格的にスタートした35期は、入場者数80万人を達成。売上高43億円、営業利益4億円、経常利益6億82百万円を計上しました。オフシーズンである秋冬の営業強化として、日本初を含む「3大マッピング」や「3大イルミネーション」を実施、またレストラン直営化やワンランク上の食事提供と原価率の改善を実現したことが奏功したものです。36期は、新たなエリアに、ここでしか体験できない花の上を空中散歩するエンターテインメントガーデン「フラワーラagoon」をオープンします。また、2016年4月には「ラグーナテンボス劇場」をオープンし、ハウステンボス歌劇団の公演を行います。

レンジに取り組み“オンリーワン・ナンバーワン”の世界観の確立とご来場のお客様のさらなるご満足度向上により初の経常利益100億円超を目指します。

観光ビジネス都市の実現へ

ハウステンボスにおいては、サービスロボットの開発、植物工場など未来を見すえた事業を推進しています。既に立ち上っているエネルギー事業では、H.I.S.店舗ネットワークを活かした営業展開を図り、2016年4月に全面自由化される電力小売事業へ参入。安定・安価な電力の供給を開始します。これからもハウステンボスを舞台に、新しい技術を世界に展開していく「観光ビジネス都市」の実現に向け、挑戦していきます。



場内最上級のクラシカルホテル「ホテルヨーロッパ」



フロントではロボットがお出迎えする「変なホテル」

36期は入場者数96万人、売上高55億円、営業利益5億200百万円、経常利益8億円を目指します。



花の上の空中散歩「フラワーラagoon」誕生

▶ 運輸事業

H.I.S.グループでは、世界の航空需要の拡大に備え、国際チャーター専門の航空会社、アジア アトランティック エアラインズを運営しています。

35期においては、成田発着便に加え、新たに東南アジアと日本各地との相互チャーター便を実施するなど、チャーター便の特性を最大限に活かす事業展開を進めてきました。その結果、16カ国35都市に定時運航率80%で就航。売上高27億87百万円（前期比85.6%）、営業損失13億47百万円（前期は営業損失17億92百万円）となりました。

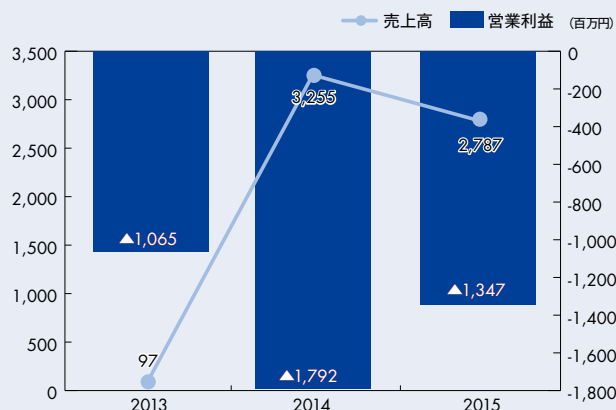
アジア アトランティック エアラインズは、H.I.S.グループの一員として、垂直統合型ビジネスの重要な役割を担っています。36期においては、タイとアジア各国を結ぶチャーター便を積極的に展開し、特に日本・タイ・中国マーケットに注力していきます。完全黒字化を目指した3ヵ年計画をすすめていきます。



Asia Atlantic Airlines



■ 売上高・営業利益の推移



垂直統合型ビジネス事例

アジア アトランティック エアラインズで行く ウォーターマークホテル&スパ バリ ジンバラン宿泊のツアー販売

H.I.S.グループでは、人気のバリ島ツアーで「垂直統合型ビジネス」を実施しています。

商品企画と販売はH.I.S.の国内支店が行い、エアラインはアジア アトランティック エアラインズのチャーター便（往復直行便）、現地宿泊は2015年にオープンしたウォーターマークホテル&スパ バリ ジンバランを使用。さらに現地での送迎をH.I.S.のバリ支店で行うなど、企画から実施のすべてをH.I.S.グループで担っています。

バリ島滞在中も、無料Wi-Fi付きのシャトルバス乗り放題、バリ島一番の繁華街にあるラウンジが無料で利用し放題など多くの特典があります。また、宿泊先のウォーターマークホテル&スパ バリ ジンバランでは、日本人シェフがプロデュースした3つのレストランや、帰国前に利用できるデパーチャールラウンジ、H.I.S.ツアーデスクなど、H.I.S.グループのホテルならではの充実した施設で、

快適な滞在をサポートします。さらに、オプションツアーの5%引きなどの特典も用意。H.I.S.グループですべてをまかなう垂直統合型のツアーならではの、シームレスで多彩なサービスとリーズナブルな価格で、旅の新しい形をつくりあげています。



ツアーのカタログ

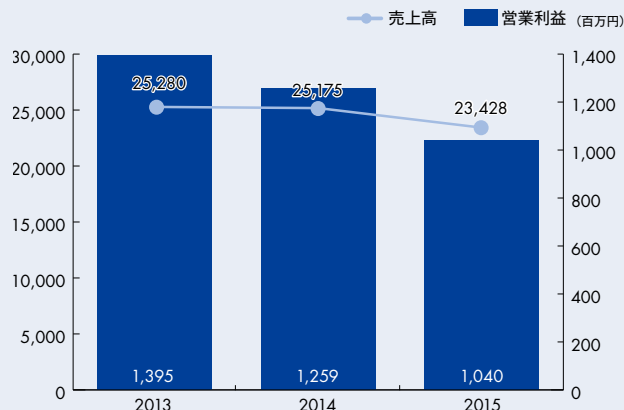
▶ 九州産交グループ



九州第2位の規模を誇るバス事業(保有台数708台)を基幹とし、全9社からなる九州産交グループ。

路線バス事業では熊本県内をはじめ、九州各都市や大阪・名古屋まで路線を拡大。訪日客の増加により貸切バス事業が好調に推移しました。航空代理店事業では空港カウンター業務や航空機地上業務において高い品質を提供しております。索道事業では阿蘇山ロープウェイが火山規制で長期運休中ながらも、日本最大級の3Dプロジェクションマッピングの施設がご好評をいただき、また、飲食・売店事業では、飲食店18店舗と売店10店舗を展開。CVSフランチャイズ加盟により遊休不動産の活用も図って

■ 売上高・営業利益の推移



おります。桜町再開発事業の進捗に伴う4事業の休業により、グループ売上高は234億28百万円(前期比93.1%)、営業利益が10億40百万円(同82.6%)となりました。

桜町再開発事業について

「桜町・花畑周辺地区のまちづくり」全体計画(熊本市HPより)

中心市街地における2核3モール^(注)の一核を担う本地区は、熊本城と庭つづき「まちの大広間」をデザインコンセプトに100年の大計として、まちの再デザインに取り組んでいます。桜町・花畑地区は、熊本市のシンボルである熊本城と中心市街地を“つなぐ”空間として、大変重要な位置にあり、中心市街地の再デザインを進める上で、要となる地区であると認識し、九州中央の拠点都市にふさわしい「くまもとの顔」として位置づけています。まちの再デザインにより都市間の競争が厳しさを増す中で、熊本の独自性や魅力をアピールすることにつながり、熊本が選ばれる都市となる際の優位性につながるとともに、中心市街地全体の活性化や政令指定都市熊本市の拠点性を高めるものになるものと考えています。

(注) 2核3モールとは、通町筋と桜町の2つの商業核と上通り・下通り・新市街の3つのアーケードのこと。

開発コンセプト

「熊本城と庭つづき、まちに開かれた新しい“おもてなしの庭”」

熊本城と庭つづきとなるまちなかの交流拠点、城をはじめ大広間(シンボルプロムナード)や周辺のまちとの関



※イメージパース

係性を保ち、ひとつの庭のように構成し、日常や非日常に域外・域内の人々をもてなす空間を創出する。

開発目標

「“わくわく”に出会う“熊本・新城下まち”」の形成

ここに来ると常に新たな何かに出会える九州を代表する周遊と交流の複合拠点を形成する。

事業概要

地区面積：約3.7ha(敷地面積：約30,260㎡)

施設概要：延床面積 約146,000㎡(地下1階・地上14階)

主要用途：商業(46,000㎡)、バスターミナル(29バス)、MICE施設(熊本市所有)、ホテル(約200室)、住宅(約150戸)、駐車場(約850台)、事務所ほか

設計：株式会社日建設計

施工予定者：大成建設株式会社

≫ CFO メッセージ

資金調達力を強化し、 戦略的M&Aなどの 新たな投資による 業容拡大を 支えています

取締役 経理・財務担当 本社経理本部長

中谷 茂



収益力を向上させ 自己資金中心の経営を進める

H.I.S.グループは、アジアでのNo.1の旅行会社となることを目標にグローバル展開を進めています。旅行事業を中核とした垂直統合ビジネスモデルを一層推進し、運輸・宿泊・エンターテインメント等を内製化することで、グループ内シナジーの充実を推進しつつ、収益力の向上を図っています。

H.I.S.の基本的な財務方針は、収益力を向上させることによる自己資金中心の経営を行うことですが、上記の事業方針を進めるにあたり、今後、M&Aや設備投資によって資金需要が急激に増加することが見込まれます。H.I.S.グループとしては、資金需要の増加に対応すべく、その時々々の市場環境や金融環境に合わせながら、自己資金だけでなく、最適な資金調達方法を検討し、選択していきます。

資金調達にあたっては、財務基盤の安定性強化と資金コストの低減を重要視しています。必要に応じて間接調達のみならず直接調達も、また、財務基盤強化のために、デットのみならずエクイティによる調達も選択肢の1つと考えています。なお、こうしたグローバル展開における資金に関しては、当面は日本での調達を考えていますが、将来は各国の金融情勢や調達の安定性とコストのバランスを考慮した上で、海外での調達も視野に入れていきます。

「経理は経営の羅針盤に」から 「財務は経営の礎に」

グローバル企業として多様な経営活動を行うための原資を確保することが、財務面の今後の鍵であると考えています。資金調達力を強化し、戦略的M&A等の新たな投資による業容拡大を支えられるよう、特に資金と為替の管理強化に努めていきます。その一環として、米国、マレーシア、中国、オランダ、UAEの海外五カ所に、地域の統括管理会社を設立し、新たなグローバル・アカウンティング・ネットワークを確立しました。各拠点において、傘下グループ会社の財務諸表の作成およびサポートを進めると同時に、こうした決算情報の収集から一歩進んで、再投資資金の留保・運用など、実際の資金の流れの拠点として活用していきます。また保有資金は、リスク分散の観点から日本円に限定せず、USDollarやユーロなどのメジャー通貨で管理することを基本方針とし、既に一部について実施しています。

従来、経理部門は、「経理は経営の羅針盤に」という理念のもと、正確・迅速な経営情報の提供による的確な意思決定のサポートを行ってきました。今後もその基本的任務を確実に果たすと同時に、それに加えて「財務は経営の礎に」をスローガンとしながら、グローバル企業として多様な経営活動の原資確保を積極的に担っていきます。

連結自己資本比率は 平均を上回る40%台で安定

2015年10月31日現在、H.I.S.グループは連結貸借対照表に、銀行借入金426億円、普通社債200億円、および転換社債201億円を計上しています。実際には、デット総額828億円を上回る現金預金1,363億円を保有しており、H.I.S.においては現金預金とデットを相殺したネットキャッシュベースでの財務指標、特に自己資本比率を重視しています。

ネットキャッシュベースで見ると、連結自己資本比率は東証上場会社平均*の38.6%を上回る40%台で安定しています。またROEも東証上場会社平均*の8.09%を上回る10%超を維持しています。中長期的にも、これらの水準を1つの目安として位置づけていく予定です。今後資金需要が増加した場合にも、これらの財務指標のバランスを崩すべきではないと考えており、今後大きなM&A案件を手がける際には、増資などのエクイティ・ファイナンスも検討していきます。

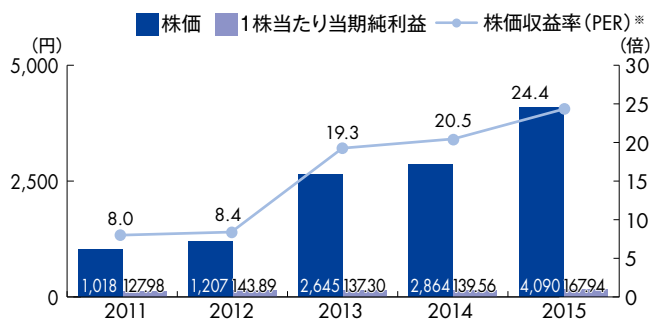
※2015年3月期の決算短信集計結果

安定配当をベースに 配当性向の向上に努める

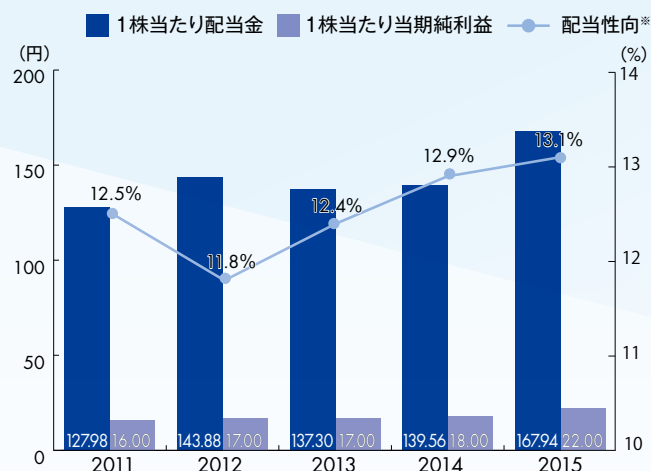
配当性向については、現在連結ベースで13%強となっていますが、将来的に安定的な配当の継続をベースとして、配当性向を高める努力をしてまいりたいと考えております。2015年度の期末配当金（年間配当金）は、1株当たり22円の普通配当とし、2016年度配当金については、年間1株当たり普通配当26円を予定しています。また、2014年に転換社債を発行しましたが、これがすべて株式に転換されると約400万株増加し、株式価値の希薄化を招くことが考えられることから、200万株の自己株式を取得しました。

世界の旅行市場は急速に拡大しています。H.I.S.グループは、今後も株主・投資家の皆様と共にグローバルに挑戦する企業としてその価値の向上に努めてまいります。ご支援、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

■ PER (株価収益率) 推移

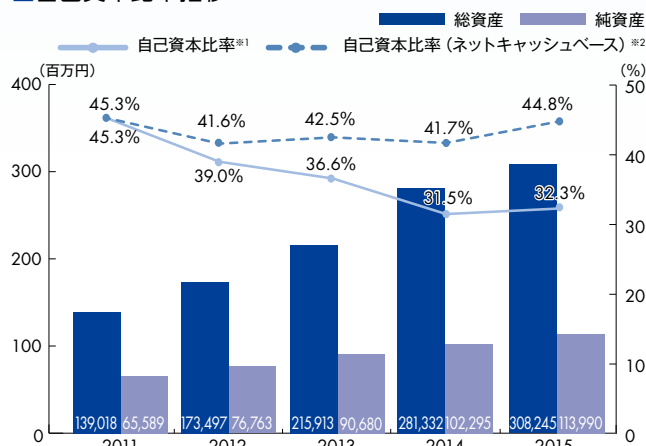


■ 配当金・配当性向推移



※ 配当性向 = 1株当たり配当金 / 1株当たり当期純利益

■ 自己資本比率推移



※1 自己資本比率 = (純資産 - 少数株主持分) / 総資産

※2 自己資本比率 (ネットキャッシュベース) = (純資産 - 少数株主持分) / (総資産 - 有利子負債)



≫ 財務状況と分析

収益力向上と収益基盤多様化を実現

H.I.S.グループの中核をなす旅行事業は、日本国内で海外旅行取扱高のシェアを継続的に伸ばしています。それに加えて、テーマパーク事業を含む子会社ハウステンボスの利益成長が、H.I.S.グループの安定成長を強固に下支えています。今後も旅行事業を中核に、ホテルやテーマパーク等の各事業を連携することで、国内外のお客様に対して、日本・海外拠点のサービスだけでなく航空輸送・宿泊・送迎などH.I.S.グループの一貫した高品質なサービスの提供を実現し、収益力の向上と収益基盤の多様化を実現しながら、さらなるリスク耐性の向上も実現していきます。

強化された財務体質

H.I.S.グループの連結経常利益は30期(2010年)の50億円から、5年後の35期(2015年)には226億円と4.5倍に拡大、また株式時価総額は同期間で4.8倍、総資産は2.6倍に拡大し、財務体質の強化を実現してきました。

2015年度末におけるH.I.S.グループの総資産は、前期末に比べ269億13百万円増加し、3,082億45百万円となっ

ています。これは主に、有形固定資産の増加(前期末比120億56百万円増)、長期貸付金の増加(同75億2百万円増)、売掛金の増加(同29億34百万円増)によるものです。

また、負債は、前期末に比べ152億18百万円増加し、1,942億54百万円となりました。これは主に、借入金の増加(前期末比170億12百万円増)によるものです。

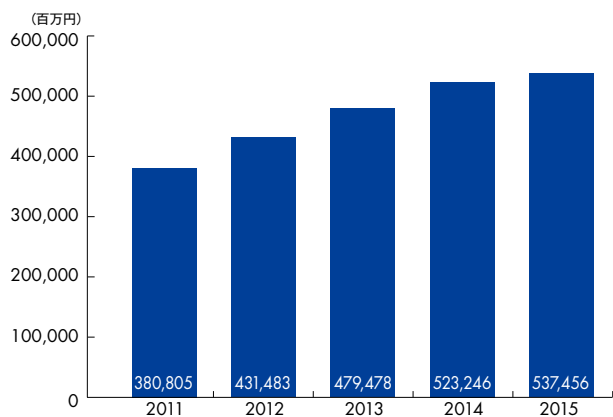
純資産は、前期末に比べ116億95百万円増加し、1,139億90百万円となりました。

なお、自己資本比率は、当期末が32.3%、前期末が31.5%となっていますが、これは社債、転換社債型新株予約権付社債、借入金により資金調達したことによります。当該影響を考慮した場合の自己資本比率は、当期末が44.2%、前期末が41.1%です。

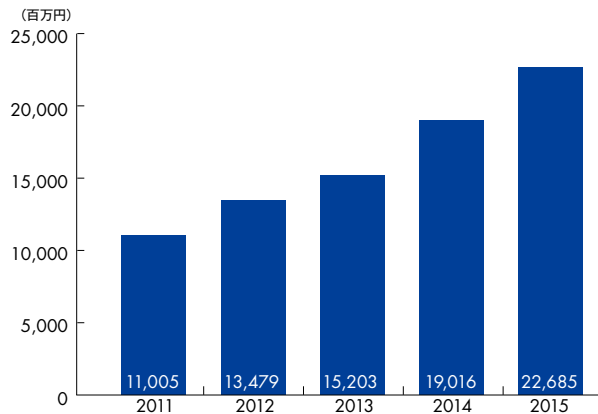
キャッシュ・フローの状況

2015年度末における現金および現金同等物の残高は、前期末に比べ31億84百万円増加し、1,133億30百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローは125億97百万円の増加、投資活動によるキャッシュ・フ

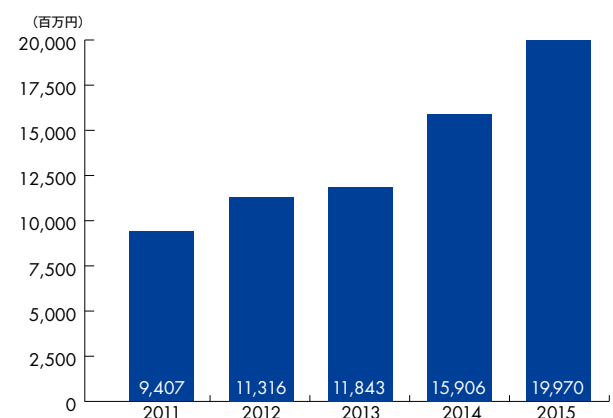
■売上高の推移(連結)



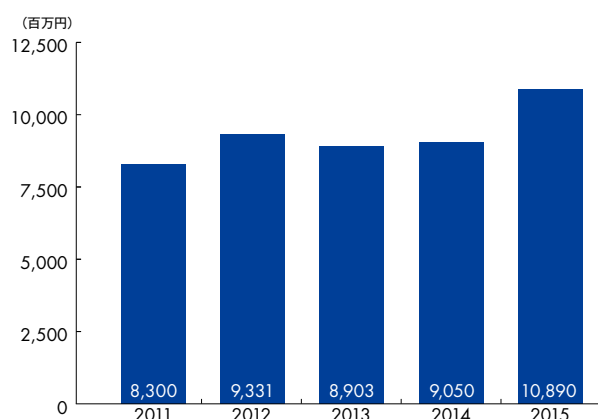
■経常利益の推移(連結)



■営業利益の推移(連結)



■当期純利益の推移(連結)



ローは281億77百万円の減少、財務活動によるキャッシュ・フローは162億53百万円の増加でした。

利益配分の基本方針

① 利益配分の基本的な方針

H.I.S.グループは、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策の1つとして認識しており、H.I.S.グループの企業価値の向上を図りながら、世界情勢や旅行業界の動向、企業体質の強化と今後の事業展開などを総合的に勘案し、実績に応じて安定的かつ継続的に会社の利益配分を実施していきたいと考えています。また、H.I.S.は中間配当が可能ですが、事業年度全体では下半期の売上等の割合が比較的高くなる傾向がみられることから、業績に対して公平な配当を実現するため、現在は年間を通しての期末配当のみとさせていただいています。

② 内部留保金の使途等

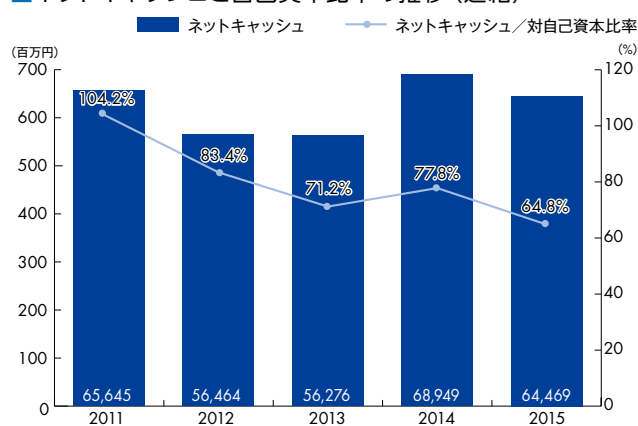
国内外における旅行業界内の急速な環境変化や競争・再編への準備、店舗網整備、情報技術への積極的な投資に加え、近年ではテロや政情不安、そして自然災害など、

想定外の外的要因にも対処してゆく必要性が高まっています。このような状況の中、H.I.S.グループとして即応可能な安定した財務基盤の確立が必須であると強く意識しており、内部留保金を比較的厚くして経営基盤を安定させたいと考えています。

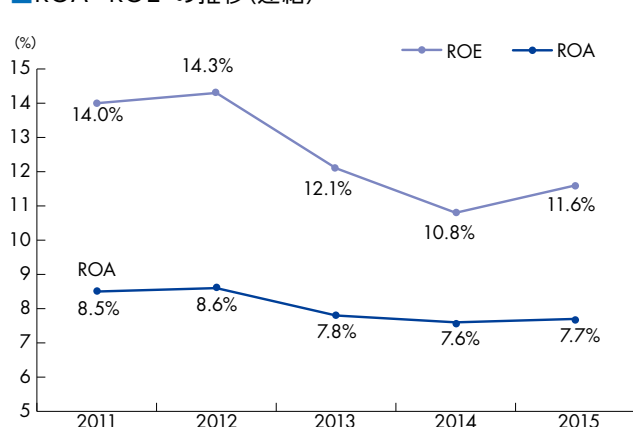
事業等のリスク

H.I.S.グループの経営成績、財政状態および株価等に影響をおよぼす可能性のある事項には、事業展開の地域性（日本における旅行事業の比重が高い）、燃油特別付加運賃（燃油サーチャージ）の変動、アジア行きの旅行者動向、訪日観光客の動向、競合各社との競争、航空会社による正規公示運賃のコミッションカット、有価証券等保有資産価値の変動、為替レートの変動、感染症の発生および蔓延、航空機の運航状況、食品の安全性、天候の影響、システム障害、個人情報の取り扱い、世界情勢、自然災害などがあります。H.I.S.グループは、これらリスクの発生の可能性を認識した上で、発生の回避および発生した場合の対応について最大限の努力をしております。

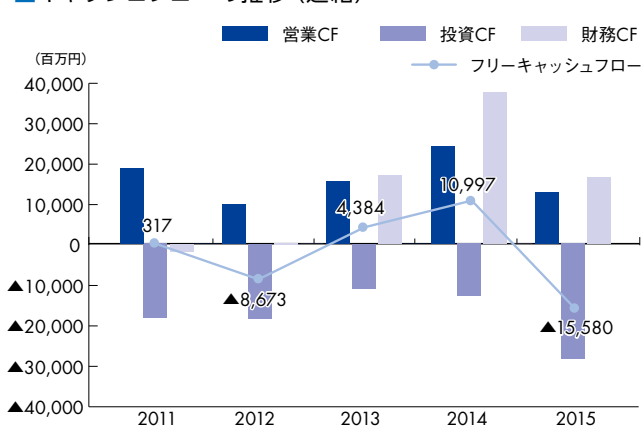
■ ネットキャッシュと自己資本比率の推移（連結）



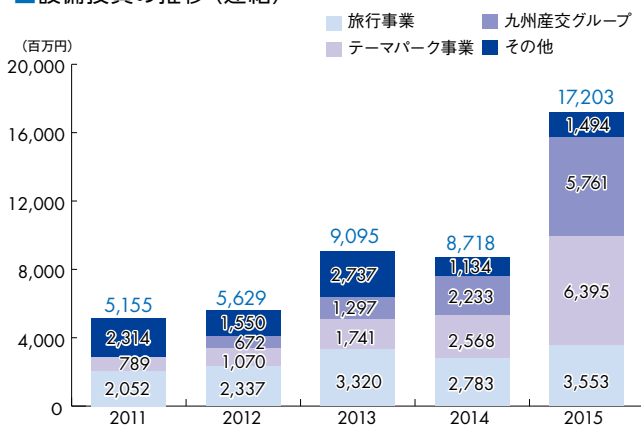
■ ROA・ROE*の推移（連結）



■ キャッシュフローの推移（連結）



■ 設備投資の推移（連結）



財務データ連結財務諸表

① 連結貸借対照表

	百万円		千USドル	
	2015年10月期	2014年10月期	2015年10月期	2014年10月期
資産の部				
流動資産				
現金及び預金	136,316	136,230	1,135,970	1,135,251
売掛金	18,430	15,496	153,587	129,135
営業未収入金	8,279	7,386	68,997	61,551
有価証券	14,322	1,486	119,350	12,385
旅行前払金	22,010	23,296	183,420	194,135
前払費用	2,474	1,884	20,617	15,706
繰延税金資産	2,619	2,054	21,829	17,120
短期貸付金	109	1,135	913	9,460
関係会社短期貸付金	71	617	597	5,148
未収入金	2,780	2,021	23,172	16,843
その他	5,686	5,261	47,388	43,845
貸倒引当金	△122	△80	△1,017	△669
流動資産 合計	212,979	196,789	1,774,827	1,639,916
固定資産				
有形固定資産				
建物	26,681	36,923	222,342	307,699
減価償却累計額	△13,213	△24,143	△110,114	△201,197
建物 (純額)	13,467	12,780	112,227	106,501
工具、器具及び備品	13,054	10,983	108,784	91,526
減価償却累計額	△8,563	△7,645	△71,360	△63,709
工具、器具及び備品 (純額)	4,490	3,338	37,423	27,817
船舶	5,469	4,738	45,577	39,484
減価償却累計額	△1,139	△809	△9,497	△6,746
船舶 (純額)	4,329	3,928	36,080	32,737
土地	23,032	22,556	191,936	187,974
リース資産	4,809	3,897	40,076	32,483
減価償却累計額	△2,008	△1,479	△16,741	△12,325
リース資産 (純額)	2,800	2,418	23,335	20,157
その他	20,737	11,424	172,815	95,202
減価償却累計額	△8,096	△7,742	△67,471	△64,519
その他 (純額)	12,641	3,681	105,343	30,683
有形固定資産 合計	60,761	48,704	506,346	405,872
無形固定資産	5,003	4,552	41,692	37,938
投資その他の資産				
投資有価証券	1,864	13,643	15,536	113,698
関係会社株式	6,844	7,438	57,041	61,984
関係会社出資金	55	65	463	548
長期貸付金	7,661	159	63,848	1,325
関係会社長期貸付金	85	136	714	1,133
繰延税金資産	3,110	2,946	25,924	24,552
差入保証金	6,501	6,044	54,175	50,372
その他	3,343	892	27,859	7,439
貸倒引当金	△207	△223	△1,728	△1,860
投資その他の資産 合計	29,260	31,103	243,836	259,194
固定資産 合計	95,025	84,360	791,875	703,005
繰延資産	241	181	2,008	1,513
資産 合計	308,245	281,332	2,568,711	2,344,436

	百万円		千USドル	
	2015年10月期	2014年10月期	2015年10月期	2014年10月期
負債の部				
流動負債				
営業未払金	21,368	22,181	178,069	184,843
短期借入金	6,860	1,350	57,166	11,250
1年内返済予定の長期借入金	21,515	1,551	179,293	12,927
未払金	3,512	2,947	29,268	24,565
未払費用	2,907	2,588	24,231	21,571
未払法人税等	3,369	6,956	28,081	57,973
未払消費税等	1,034	833	8,622	6,942
旅行前受金	50,711	50,542	422,594	421,189
リース債務	834	758	6,952	6,321
賞与引当金	3,387	2,968	28,227	24,741
役員賞与引当金	161	141	1,345	1,177
その他	7,330	5,564	61,089	46,367
流動負債 合計	122,993	98,384	1,024,944	819,871
固定負債				
社債	20,000	20,000	166,666	166,666
転換社債型新株予約権付社債	20,153	20,193	167,944	168,277
長期借入金	14,319	22,780	119,329	189,839
繰延税金負債	4,868	4,880	40,572	40,673
退職給付に係る負債	6,009	6,945	50,078	57,878
役員退職慰労引当金	747	737	6,225	6,146
修繕引当金	1,023	1,433	8,525	11,942
リース債務	2,486	2,133	20,721	17,777
その他	1,653	1,547	13,782	12,899
固定負債 合計	71,261	80,652	593,845	672,101
負債 合計	194,254	179,036	1,618,789	1,491,972
純資産の部				
株主資本				
資本金	11,000	6,882	91,666	57,353
資本剰余金	3,665	7,782	30,542	64,856
利益剰余金	82,150	71,612	684,587	596,770
自己株式	△ 2,535	△ 2,533	△ 21,129	△ 21,115
株主資本 合計	94,280	83,743	785,666	697,864
その他の包括利益累計額				
その他有価証券評価差額金	49	324	416	2,703
繰延ヘッジ損益	△ 449	790	△ 3,749	6,589
為替換算調整勘定	5,878	3,902	48,991	32,518
退職給付に係る調整累計額	△ 230	△ 173	△ 1,918	△ 1,449
その他の包括利益累計額 合計	5,248	4,843	43,739	40,362
少数株主持分	14,461	13,708	120,515	114,236
純資産 合計	113,990	102,295	949,921	852,463
負債純資産 合計	308,245	281,332	2,568,711	2,344,436

(注) 1USドル=120円で換算しています

②連結損益計算書及び連結包括利益計算書
連結損益計算書

	百万円		千USドル	
	2015年10月期	2014年10月期	2015年10月期	2014年10月期
売上高	537,456	523,246	4,478,805	4,360,383
売上原価	429,201	427,306	3,576,681	3,560,888
売上総利益	108,254	95,939	902,123	799,495
販売費及び一般管理費	88,284	80,033	735,704	666,944
営業利益	19,970	15,906	166,419	132,550
営業外収益				
受取利息	1,155	639	9,627	5,330
為替差益	1,109	784	9,245	6,540
持分法による投資利益	77	786	649	6,551
その他	1,429	1,605	11,915	13,380
営業外収益 合計	3,772	3,816	31,437	31,802
営業外費用				
支払利息	265	171	2,210	1,427
デリバティブ評価損	166	—	1,390	—
その他	625	534	5,212	4,455
営業外費用 合計	1,057	705	8,814	5,883
経常利益	22,685	19,016	189,043	158,470
特別損失				
投資有価証券売却損	484	—	4,034	—
特別損失 合計	484	—	4,034	—
税金等調整前当期純利益	22,200	19,016	185,008	158,470
法人税、住民税及び事業税	8,447	8,905	70,397	74,212
法人税等調整額	△272	△1,160	△2,269	△9,671
法人税等合計	8,175	7,744	68,128	64,541
少数株主損益調整前当期純利益	14,025	11,271	116,879	93,929
少数株主利益	3,134	2,221	26,121	18,508
当期純利益	10,890	9,050	90,757	75,420

(注) 1USドル=120円で換算しています

連結包括利益計算書

	百万円		千USドル	
	2015年10月期	2014年10月期	2015年10月期	2014年10月期
少数株主損益調整前当期純利益	14,025	11,271	116,879	93,929
その他の包括利益				
その他有価証券評価差額金	△272	△630	△2,269	△5,254
繰延ヘッジ損益	△1,245	823	△10,376	6,859
為替換算調整勘定	2,148	1,340	17,903	11,172
退職給付に係る調整額	27	—	230	—
持分法適用会社に対する持分相当額	△100	235	△836	1,960
その他の包括利益計算書利益合計	558	1,768	4,651	14,738
包括利益	14,583	13,040	121,531	108,667
(内訳)				
親会社株主に係る包括利益	11,296	10,787	94,135	89,896
少数株主に係る包括利益	3,287	2,252	27,396	18,770

(注) 1USドル=120円で換算しています

③連結株主資本等変動計算書
2015年10月期

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
期首残高	6,882	7,782	71,612	2,533	83,743
会計方針の変更による累積的影響額			818		818
会計方針の変更を反映した期首残高	6,882	7,782	72,430	2,533	84,562
変動額					
剰余金の配当			△ 1,167		△ 1,167
当期純利益			10,890		10,890
連結範囲の変動			△ 4		△ 4
自己株式の取得				△ 1	△ 1
資本剰余金から資本金への振替	4,117	△ 4,117			—
株主資本以外の項目の変動額（純額）					—
変動額合計	4,117	△ 4,117	9,719	△ 1	9,717
期末残高	11,000	3,665	82,150	△ 2,535	94,280

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
期首残高	324	790	3,902	△ 173	4,843	13,708	102,295
会計方針の変更による累積的影響額					—	374	1,192
会計方針の変更を反映した期首残高	324	790	3,902	△ 173	4,843	14,082	103,488
変動額							
剰余金の配当					—		△ 1,167
当期純利益					—		10,890
連結範囲の変動					—		△ 4
自己株式の取得					—		△ 1
資本剰余金から資本金への振替					—		—
株主資本以外の項目の変動額（純額）	△ 274	△ 1,240	1,976	△ 56	405	379	784
変動額合計	△ 274	△ 1,240	1,976	△ 56	405	379	10,502
期末残高	49	△ 449	5,878	△ 230	5,248	14,461	113,990

2014年10月期

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
期首残高	6,882	7,782	63,664	△ 2,529	75,800
変動額					
剰余金の配当			△ 1,102		△ 1,102
当期純利益			9,050		9,050
自己株式の取得				△ 4	△ 4
自己株式の処分		0		0	0
株主資本以外の項目の変動額（純額）					—
変動額合計	—	0	7,947	△ 4	7,943
期末残高	6,882	7,782	71,612	△ 2,533	83,743

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
期首残高	951	△ 19	2,348	—	3,280	11,599	90,680
変動額							
剰余金の配当					—		△ 1,102
当期純利益					—		9,050
自己株式の取得					—		△ 4
自己株式の処分					—		0
株主資本以外の項目の変動額（純額）	△ 627	810	1,553	△ 173	1,563	2,108	3,671
変動額合計	△ 627	810	1,553	△ 173	1,563	2,108	11,615
期末残高	324	790	3,902	△ 173	4,843	13,708	102,295

④連結キャッシュ・フロー計算書

	百万円		千USドル	
	2015年10月期	2014年10月期	2015年10月期	2014年10月期
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期純利益	22,200	19,016	185,008	158,470
減価償却費	6,310	5,038	52,583	41,989
のれん償却額	193	244	1,611	2,037
賞与引当金の増減額（△は減少）	360	1,307	3,007	10,892
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	17	66	145	558
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	782	867	6,517	7,227
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	8	65	71	545
修繕引当金の増減額（△は減少）	△ 434	△ 86	△ 3,618	△ 716
受取利息及び受取配当金	△ 1,163	△ 649	△ 9,694	△ 5,416
持分法による投資損益（△は益）	△ 77	△ 786	△ 649	△ 6,551
為替差損益（△は益）	△ 743	△ 599	△ 6,195	△ 4,994
支払利息	265	171	2,210	1,427
投資有価証券売却損益（△は益）	484	—	4,034	—
その他の損益（△は益）	124	△ 139	1,035	△ 1,163
売上債権の増減額（△は増加）	△ 3,191	△ 1,971	△ 26,597	△ 16,427
旅行前払金の増減額（△は増加）	1,423	△ 1,601	11,864	△ 13,345
その他の資産の増減額（△は増加）	△ 2,469	△ 728	△ 20,580	△ 6,072
仕入債務の増減額（△は減少）	△ 1,509	1,757	△ 12,579	14,645
未払消費税等の増減額（△は減少）	193	385	1,609	3,212
未払費用の増減額（△は減少）	273	332	2,280	2,768
旅行前受金の増減額（△は減少）	40	3,012	337	25,102
その他の負債の増減額（△は減少）	689	852	5,743	7,101
小計	23,777	26,554	198,145	221,289
利息及び配当金の受取額	1,049	666	8,743	5,551
利息の支払額	△ 246	△ 164	△ 2,050	△ 1,368
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△ 11,983	△ 3,355	△ 99,861	△ 27,963
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,597	23,701	104,977	197,509

	百万円		千USドル	
	2015年10月期	2014年10月期	2015年10月期	2014年10月期
投資活動によるキャッシュ・フロー				
定期預金の預入による支出	△ 53,732	△ 36,557	△ 447,770	△ 304,646
定期預金の払戻による収入	54,621	32,469	455,181	270,579
有価証券の取得による支出	△ 2,000	△ 4,478	△ 16,666	△ 37,324
有価証券の償還による収入	2,043	5,600	17,027	46,666
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 15,345	△ 6,423	△ 127,878	△ 53,530
投資有価証券の取得による支出	△ 2,137	△ 1,367	△ 17,816	△ 11,391
関係会社株式の取得による支出	△ 5,660	△ 1,707	△ 47,172	△ 14,225
投資有価証券の売却による収入	150	828	1,257	6,902
投資有価証券の償還による収入	800	—	6,666	—
貸付けによる支出	△ 7,429	△ 639	△ 61,908	△ 5,333
貸付金の回収による収入	1,148	45	9,571	378
差入保証金の差入による支出	△ 1,083	△ 761	△ 9,027	△ 6,341
差入保証金の回収による収入	710	615	5,923	5,131
その他	△ 263	△ 327	△ 2,197	△ 2,729
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 28,177	△ 12,703	△ 234,812	△ 105,864
財務活動によるキャッシュ・フロー				
短期借入れによる収入	37,255	16,045	310,458	133,708
短期借入金の返済による支出	△ 31,745	△ 16,795	△ 264,541	△ 139,958
長期借入れによる収入	13,065	930	108,875	7,750
長期借入金の返済による支出	△ 1,562	△ 1,557	△ 13,018	△ 12,978
配当金の支払額	△ 1,167	△ 1,102	△ 9,727	△ 9,187
社債の発行による収入	—	19,908	—	165,907
新株予約権付社債の発行による収入	—	20,166	—	168,050
少数株主への配当金の支払額	△ 33	△ 16	△ 275	△ 137
少数株主からの払込による収入	1,080	—	9,000	—
その他	△ 639	△ 544	△ 5,327	△ 4,541
財務活動によるキャッシュ・フロー	16,253	37,033	135,442	308,613
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,636	687	13,638	5,732
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	2,309	48,719	19,246	405,991
現金及び現金同等物の期首残高	110,145	61,426	917,882	511,890
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	875	—	7,292	—
現金及び現金同等物の期末残高	113,330	110,145	944,421	917,882

(注) 1USドル=120円で換算しています

>> 企業概要

名 称	株式会社エイチ・アイ・エス (東証1部:会社コード 9603)
登録番号	観光庁長官登録旅行業第724号
資本金	11,000百万円(2015年10月31日現在)
設立	1980年12月19日
本社	〒163-6029 東京都新宿区西新宿6-8-1 住友不動産新宿オークタワー29階
売上高	5,374億円(2015年10月連結業績)
従業員数	13,612名 (グループ全体 2015年10月31日現在)
加盟団体	日本旅行業協会(JATA) 国際航空運送協会(IATA)
取引銀行	三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行 東京都民銀行 その他
関係会社	【旅行事業】 株式会社オリオンツアー H.I.S. INTERNATIONAL TOURS(NY) INC. ほか67社 【テーマパーク事業】 ハウステンボス株式会社 ほか5社 【ホテル事業】 THE WATERMARK HOTEL GROUP PTY LTD ほか9社 【その他】 九州産業交通ホールディングス株式会社 ほか23社

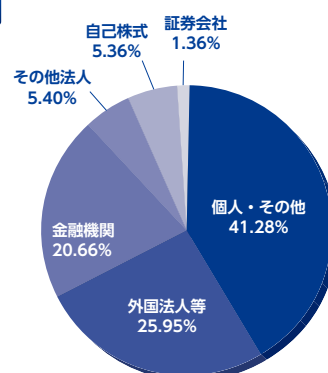
役 員	代表取締役会長	澤田 秀雄
	代表取締役社長	平林 朗
	専務取締役	楠原 成基
	常務取締役	中森 達也
	取締役	中谷 茂
	取締役	坂口 克彦
	取締役	山野邊 淳
	取締役	織田 正幸
	取締役	高木 潔
	取締役 相談役	行方 一正
上席執行役員	取締役監査等委員	平田 雅彦
	取締役監査等委員	梅田 常和
	取締役監査等委員	関田 園子
	執行役員	和田 光
執行役員	高野 清	
	白井 健一	
	波多野英夫	
	福島 研 五味 睦	

>> 株式情報 (2015年10月31日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	88,551,450 株
発行済株式の総数	68,522,936 株
株 主 数	12,664 名

株式分布状況

所有者株式
分布状況

大株主の状況(上位10名)

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
澤田 秀雄	19,073	27.84%
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	8,141	11.88%
株式会社エイチ・アイ・エス	3,673	5.36%
有限会社秀インター	3,381	4.93%
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	2,103	3.07%
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	1,742	2.54%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	1,653	2.41%
ジェーピー モルガン チェース バンク	1,553	2.27%
全国共済農業協同組合連合会	1,139	1.66%
行方 一正	1,021	1.49%

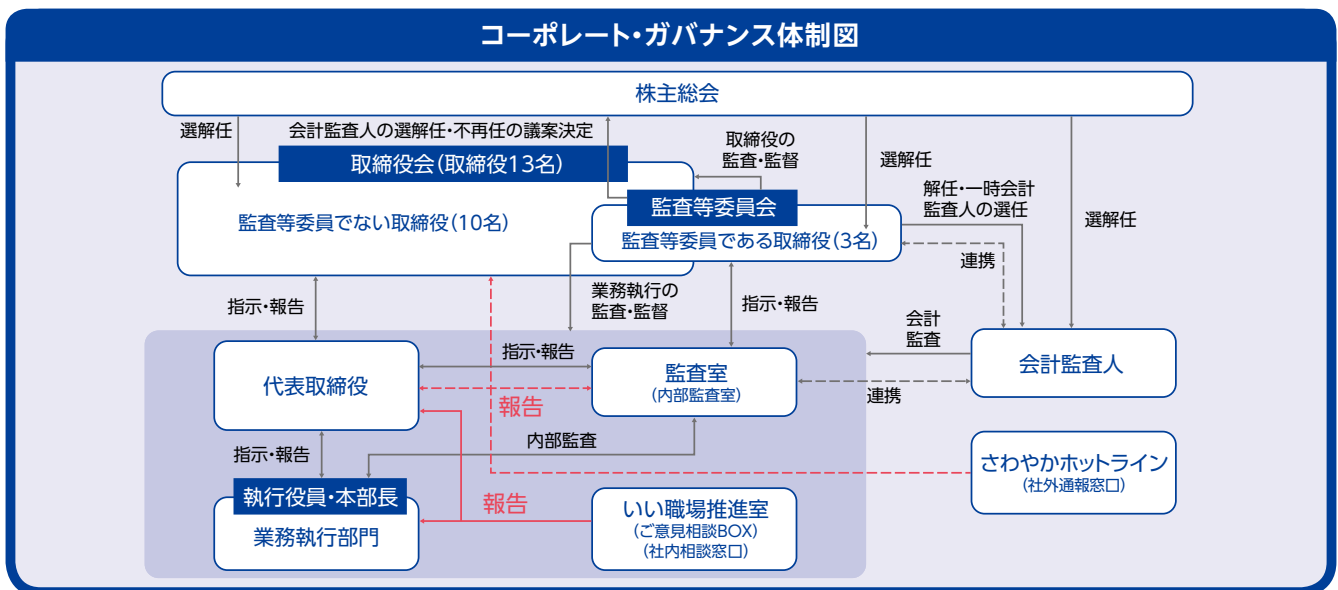
≫ コーポレート・ガバナンス

私たちはステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指し、コーポレート・ガバナンス体制の中にCSR推進活動を組み込んでいます。

コーポレート・ガバナンス体制は、株主総会のもとに取締役会と監査役会を置く体制から、2016年1月の定時株主総会での承認を受け、取締役会と監査等委員会を置く体制へ移行しました。この移行は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指して、コーポレート・ガバナンスの

一層の強化を図ることを目的としています。新しい体制は、取締役13名で構成する取締役会が経営方針や重要な業務執行を決定し、取締役監査等委員として株主総会で選任された取締役3名が監査等委員会を構成して、取締役や取締役会の職務執行を監査・監督する役割を担います。

コーポレート・ガバナンス・コードへの対応については、2015年6月にプロジェクト・チームを発足させ、ガイドラインの策定を進めています。



≫ 企業理念とCSR

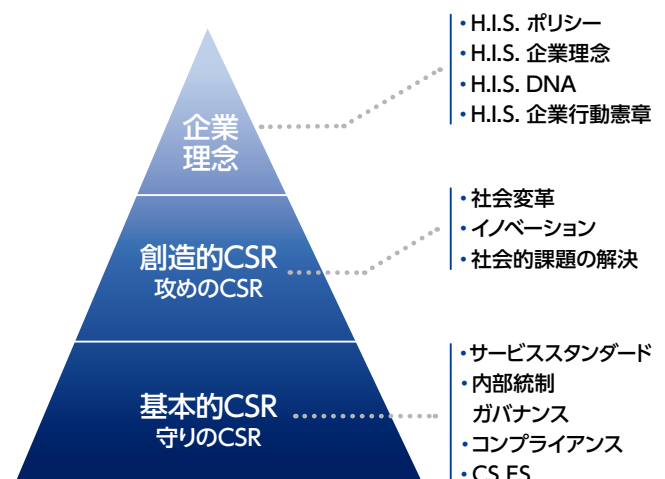
「H.I.S.企業理念」および「H.I.S.企業行動憲章」は、H.I.S.が事業を通じて果たすべき社会的使命と意義を明確に表現しています。この哲学をすべての意思決定と企業行動の基準として、周知・徹底を図っています。外国人スタッフを含めた全スタッフに、企業理念や企業行動憲章、H.I.S.ポリシー、サービススタンダードやH.I.S.DNAなどが記載されたポケットサイズのクレドカードを配布。携行を義務づけ、日々の業務の中で注意を喚起しています。

H.I.S.グループは、CSR活動を創造的CSRと基本的CSRの2つに分けて考えています。「基本的CSR」は、お客様の安全・安心、社員の健康・生きがい、コンプライアンス活動など、業務プロセスの中に社会的責任を織り込む活動です。「創造的CSR」は多様なステークホルダーの皆様と協働でさらに大きな社会的価値を生み出す(ソーシャル・イノベーション)活動で、各種の旅行企画もその1つです。



H.I.S. 企業理念

ツーリズムを通じて、世界の人々の見識を高め、国籍、人種、文化、宗教などを越え、世界平和・相互理解の促進に貢献する。



沿革



1993年
新宿に移転拡張した日本最大級の
トラベルワンダーランド新宿本社営業所



2002年
東証二部に株式上場



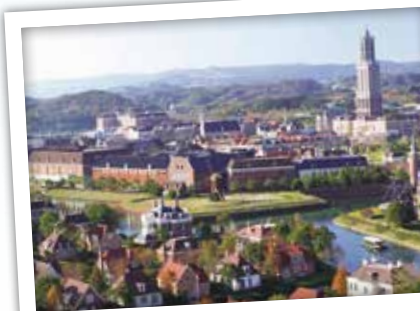
2008年
平林が社長に就任し、新体制がスタート



1996年
ウォーターマークホテル&スパ ゴールド
コーストをオープン

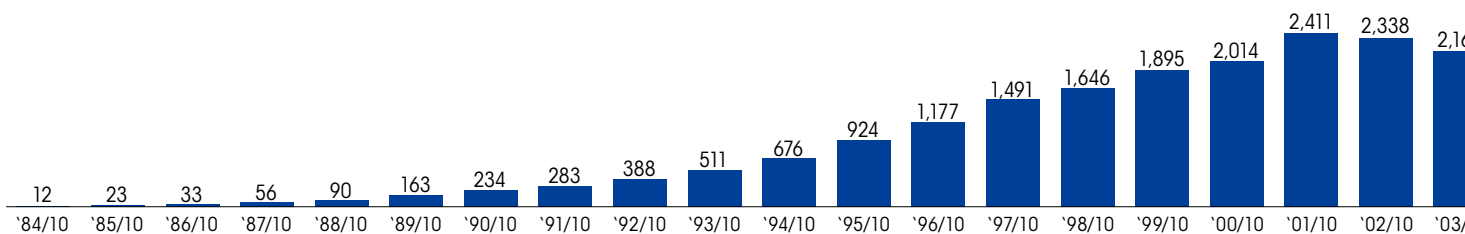


2004年
東証一部に株式上場



2010年
ハウステンボス(株)を子会社化

※1984年10月～1993年10月は単体の数値です
(億円)



1980年	1981年	1984年	1985年	1986年	1989年	1990年	1991年	1993年	1994年	1995年	1996年	1998年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2008年	2009年	2010年
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

- ハウステンボス株式会社を子会社化
- 海外拠点数100店舗突破
- 株式会社欧州エクスプレスを子会社化
- 株式会社A.T.B.の販売ネットワークを当社の下で新生スタート
- 国内営業所250店舗突破
- 国内初のホテル「ウォーターマークホテル札幌」をオープン
- 組織改編を行い、「いい旅研究室」を新設
- インバウンド新会社、「株式会社エイチ・アイ・エス エクスプレスジャパン」設立
- 「九州産業交通株式会社」(現九州産交ホールディングス株式会社)が、グループ会社の二員に
- オーストラリア2番目のホテル「Hotel Watermark Brisbane」をオープン
- 国内営業所200店舗突破
- 東証一部株式上場
- 海外拠点数50店舗突破
- 初の国際線チャーター便を販売
- 東証一部株式上場
- トラベルワンダーランド新宿本社営業所10周年記念リニューアルで、旅の専門デスクをオープン
- 株式会社クルーズプラネットを子会社化
- iモードの公式サイトとして「H.I.S. 海外旅行ナビ」をオープン
- 株式会社マップインターナショナル(後の株式会社A.T.B.)を子会社化
- 株式会社豊和トラベルサービス(現株式会社オリオンツアー)を子会社化
- 国内営業所100店舗突破
- 航空会社スカイマークエアラインズ設立発表(現在はグループ外)
- ホテル事業としてThe Watermark Hotel Gold Coast(現Hotel Watermark)をオープン
- ホームページオープン
- 株式を店頭公開する
- 中部、関西、九州の営業本部が統合拡張、各地最大級のオフィスとなるトラベルワンダーランドオープン
- 本社統合のため新宿に移転拡張、海外旅行のデパート「トラベルワンダーランド新宿本社営業所」オープン
- 団体旅行を扱うグループセクション開設
- 国際航空運送協会(IATA)の公認代理店に許可される
- 業務渡航を扱う「ビジネスセクション」開設
- 社名を「株式会社エイチ・アイ・エス」に変更
- 海外ウェディング「アバンティ&オアシス」(新橋営業所内に開設)
- 初めての自社主催商品「Ciao(チャオ)」を発売
- 九州地区の拠点として、福岡営業所オープン
- 中部地区の拠点として、名古屋営業所オープン
- 運輸大臣登録一般旅行業第724号取得
- 初の海外支店として、香港支店オープン
- 関西地区の拠点として、大阪営業所オープン
- 運輸大臣登録旅行業代理店第3034号取得
- 資本金1000万円で、当社の前身である株式会社インターナショナルツアーズを設立

主要子会社および関連会社

旅行事業

- HAWAII HIS CORPORATION
 - H.I.S. INTERNATIONAL TOURS (NY) INC.
 - H.I.S. GUAM, INC.
 - H.I.S. CANADA INC.
 - HIS SAIPAN INC
 - H.I.S. KOREA CO., LTD.
 - H.I.S. Tours Co., Ltd.
 - PT. HARUM INDAH SARI TOURS & TRAVEL
 - HIS (HONG KONG) COMPANY LIMITED
 - H.I.S. TAIWAN COMPANY LIMITED
 - H.I.S. INTERNATIONAL TRAVEL PTE LTD
 - H.I.S. AUSTRALIA PTY. LTD.
 - H.I.S. EUROPE LIMITED
 - H.I.S. INTERNATIONAL TOURS FRANCE SARL
 - H.I.S. Deutschland Touristik GmbH
 - H.I.S. EUROPE ITALY S.R.L.
 - HIS ULUSLARARASI TURIZM SEYAHAT ACENTASI LIMITED SIRKETI
 - GM COMMUNICATIONS LIMITED (ミキグループ)
 - 株式会社オリオンツアー
 - 株式会社クオリタ
 - 株式会社欧州エクスプレス
 - 株式会社ツアー・ウェーブ
 - 株式会社ジャパンホリデートラベル
 - 株式会社クルーズプラネット
 - H.I.S.ANAナビゲーションジャパン株式会社
- ほか44社

テーマパーク事業

- ハウステンボス株式会社
 - ハウステンボス・技術センター株式会社
 - エイチ・ティ・ビィ観光株式会社
 - 株式会社ラグーナテンボス
 - HTBエナジー株式会社
- ほか1社

直営ホテル

- ホテルヨーロッパ
- ホテルアムステルダム
- フォレストヴィラ
- 変なホテル

ホテル事業

- H.I.S. AUSTRALIA HOLDINGS PTY LTD
 - H.I.S. INVESTMENTS PTY LTD
 - THE WATERMARK HOTEL GROUP PTY LTD
 - WHG INVESTMENTS BRISBANE PTY LTD
 - L'MARK PTY LTD
 - 株式会社ウォーターマークホテル・ジャパン
 - 株式会社ウォーターマークホテル長崎
 - GUAM REEF HOTEL, INC.
 - PT. HARUM INDAH SARI INDONESIA
- ほか1社

運輸事業

- ASIA ATLANTIC AIRLINES CO., LTD.
 - HTBクルーズ株式会社
 - TEN BOSCH CRUISE PANAMA S.A.
- ほか1社

九州産交グループ

- 九州産業交通ホールディングス株式会社
 - 九州産交バス株式会社
 - 九州産交ツーリズム株式会社
 - 九州産交ランドマーク株式会社
 - 熊本フェリー株式会社
 - 産交バス株式会社
 - 九州産交整備株式会社
 - 九州産交リテール株式会社
 - 熊本桜町再開発株式会社
- ほか2社

その他の事業

- エイチ・エス損害保険株式会社
- ほか8社



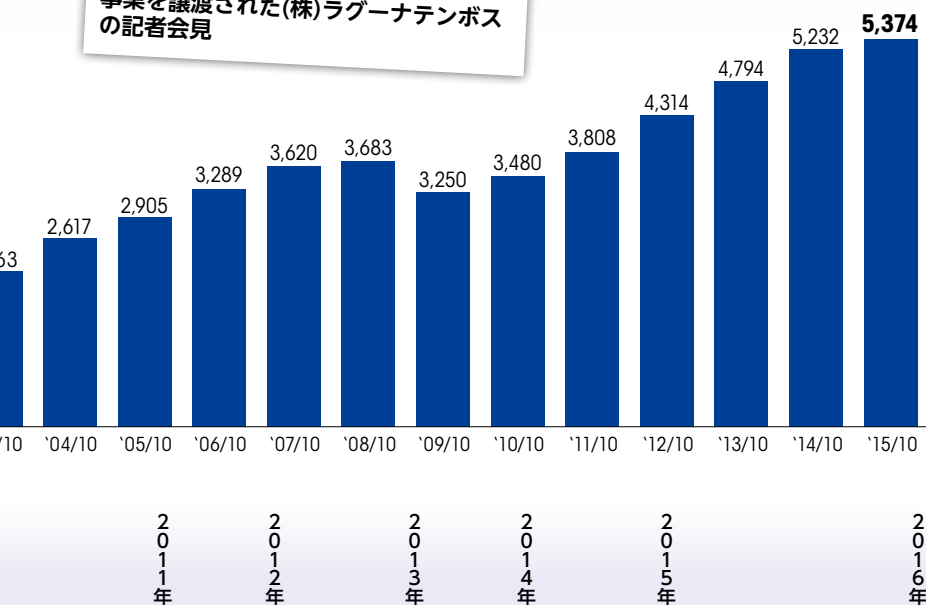
2012年
アジア アトランティック エアラインズを
バンコクに設立



2014年
事業を譲渡された(株)ラグーナテンボス
の記者会見



2016年
「変なホテル」2期棟オープン



- ハウステンボス内に「変なホテル」2期棟をオープン
- 電力販売開始
- 韓国大手オンラインショッピングモール「INTERPARK」との合併会社「株式会社INTERPARK JAPAN」を設立
- 中国オンライン旅行会社「同程国際旅行有限公司(LY.com)」との合併会社「LY・HISトラベル株式会社」を設立
- 海外拠点数200店舗突破
- 国内営業所300店舗突破
- ハウステンボス内に「変なホテル」をオープン
- 「ウォーターマークホテル&スパバリ」をオープン
- ジンパランをオープン
- 海外拠点数150店舗突破
- ANAセールズ株式会社との合併会社「H.I.S. ANAナビゲーションジャパン株式会社」を設立
- 株式会社ラグーナテンボスを設立
- ラグーナ蒲郡の3事業を運営開始
- 海外Eコマースサイト「his.go」の運用が39カ国へ拡大
- コスタビクトリア号のチャータークルーズ開始
- 国際チャーター航空会社「アジアアトランティックエアラインズ」をバンコクに設立
- GUAM REEF & OLIVE SPA RESORTを子会社化
- GM Communications Limitedが関連会社の「員」に
- 「ウォーターマークホテル長崎」をオープン
- HTBクルーズ株式会社設立
- 株式会社ジャパンホリデートラベルを子会社化
- 株式会社エイチ・ティ・エス・エクスプレス・ジャパンをH.I.S.に統合し、インバウンド事業を本化
- 「富裕層向け会員組織「CLASS ONE」スタート
- 「おもてなし」を追求した新ブランド「QUALITA」を設立



株式会社 エイチ・アイ・エス
H.I.S. CO., LTD

〒163-6029 東京都新宿区西新宿 6-8-1 新宿オークタワー 29 階
Shinjuku Oak Tower 29F 6-8-1 Nishishinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 163-6029, JAPAN
<http://www.his.co.jp>